

## スポーツ・サイエンス・インスティテュート (SSI)

## I 2022 年度 大学評価委員会の評価結果への対応

## 【2022 年度大学評価結果総評】(参考)

SSI は、2024 年度に実施する抜本的なカリキュラム改革にむけて、カリキュラム委員会を立ち上げ、関連部局と丁寧連携しながら準備を進めている。2022 年度の「重点目標」は新カリキュラムポリシーの策定である。この作業が、これまでの教育目標やカリキュラム体系の課題、学生の達成度を検証したうえで進められることの重要性は、「2021 年度自己点検・評価報告書」ですでに指摘されておりである。これを受けて、学生へ独自のアンケートを実施したことは高く評価できる。2022 年度は、このアンケート結果を踏まえて、現時点での学生のニーズと将来求められることといった、中・長期的展望のバランスを備えた新たなカリキュラムポリシーの具体化がなされるであろう。

本インスティテュートは、SSI 生に対して修学支援の面でもきめ細かな対応を行っており、今後も独自の修学支援アドバイザー制度を検討しており大いに評価できるが、他方で教職員の負担が過剰になる恐れも否めない。COVID-19 による厳しい行動制限を経て日常生活・学習環境の変化を経験するなか、「東京 2020 オリンピック・パラリンピック」の影響もあり、一般的にも「スポーツの力」は再認識された。文武両道を目指し直向きに精進する SSI 生の姿は、一般の学生にとって良い刺激となり、SSI 生にとっても期待と応援を受ける好循環が生じる可能性がある。その意味で SSI 生(学生アスリート)について、もっと学内での認知度や関心を高め、学生同士が自主的かつ組織的に支援する取り組みを関連学部や学生センターなどと連携して考えてもよいだろう。それによって教職員の負担増を抑えつつ、部活外での交流が薄いと指摘された SSI 生と一般学生との交流を促し、互いから学ぶ機会を得る環境作りにも期待したい。

## 【2022 年度大学評価委員会の評価結果への対応状況】

SSI では、2023 年度をもって、発足当時から 19 年間続けてきたカリキュラムを終了し、2024 年度から新しいカリキュラムで実施する。この間、社会情勢や学生のニーズに合わせて、柔軟にマイナーチェンジを行う努力をしてきた。今回新カリキュラム策定にあたり、その柱となるカリキュラムポリシーを検討した結果、現行のポリシーを基軸とし、それに一部修正及び加筆することで、運営委員会の承認を得ることができた。その内容は、人文・社会科学系と自然科学系の科目をバランスよく配備して、学生がより能動的に学べる(アクティブラーニング)教育方法について工夫した。具体的には、ディスカッションやディベートを行いやすい「ゼミ形式の科目」を新設する予定である。また必修科目である基礎科目の中に、SSI 生全員が受講する「スポーツ学入門」を新設して、教育課程及び教育内容の「初年時教育」を充実させる。本科目では、SSI が目指す方向や望む人物像、及び学習の到達点などについて、全 SSI 生が同じ内容で共有できる仕組みを取り入れる予定である(開講キャンパス、曜日、時限に影響されない「フルオンデマンド」を計画している)。

SSI 生は本インスティテュートに参画している 10 学部部に所属しており、約 900 名を超える規模となっている。コロナ禍においても、感染予防対策を講じ、それぞれの活動に励んできた。今春には WBC が開催され、2020 東京オリンピックに続き「スポーツの力」によって人々が励まされた。法政大学の学生全体からすれば、SSI 生は非常に少ないが、その活躍を SNS やホームページ、スポーツ法政新聞などと連携して発信していく工夫を検討していきたい。また学生センターと協同して、試合の応援ツアーやメディアラウンジなどで、SSI 生が所属するクラブ紹介の企画などを実施することで、一般学生と SSI 生の交流を図ることに努めたい。

## II 自己点検・評価

## 1 教育課程・学習成果

## (1) 点検・評価項目における現状

## 1.1 学生の学習を活性化し、効果的に教育を行うための様々な措置を講じているか。

※ 回答欄「はい・いいえ」は法令要件やその他の基礎的な要件の充足を点検している。

1.1①学生の履修指導を適切に行っていますか。	はい
1.1②学生の学習指導を適切に行っていますか。	はい
1.1③学生の学習時間（予習・復習）を確保するための方策を行っていますか。	はい
1.1④それぞれの授業形態（講義、語学、演習・実験等）に即して、1授業あたりの学生数が配慮されていますか。	はい
1.1⑤シラバスの内容の適切性と授業内容とシラバスの整合性を確保していますか。	はい
<b>【根拠資料】</b>	
<ul style="list-style-type: none"> <li>● 2022年度 SSI 履修の手引き（HONDANA）</li> <li>● 2022年度 SSI ガイダンス（オンライン：リアルタイムとオンデマンド） <a href="https://www.hosei.ac.jp/ssi/info/article-20220315171202/">https://www.hosei.ac.jp/ssi/info/article-20220315171202/</a></li> <li>● 2022年度第6回 SSI 運営委員会及び質保証委員会及びその議事録 ➢ 審議事項（8）SSI ガイダンスの実施について</li> <li>● 2022年度 SSI 生共通履修ガイダンス（オンデマンド動画） <a href="https://hosei-ac-jp.zoom.us/rec/share/lqf6PEFnZz8y6g-k1HRy0yGFLRVNvieouCS515qEiUo-YLgqTMs7NgKjqMHXCxdt.8qIvCmSQ8KZ9bz2e">https://hosei-ac-jp.zoom.us/rec/share/lqf6PEFnZz8y6g-k1HRy0yGFLRVNvieouCS515qEiUo-YLgqTMs7NgKjqMHXCxdt.8qIvCmSQ8KZ9bz2e</a> パスコード：#G17fzL?</li> <li>● 2022年度履修のポイント（PDF）</li> <li>● 法政大学 Web シラバス <a href="https://syllabus.hosei.ac.jp/web/show.php?nendo=2023&amp;gakubueng=AYA&amp;t_mode=pc">https://syllabus.hosei.ac.jp/web/show.php?nendo=2023&amp;gakubueng=AYA&amp;t_mode=pc</a></li> <li>● 2022年度第2回 SSI 運営委員会及びカリキュラム委員会資料（9）及びその議事録 ➢ 2021年度秋学期 GPCA 集計結果について（SSI） ➢ 2021年度卒業生アンケート結果について（抜粋）</li> <li>● 2022年度第6回 SSI 運営委員会及び質保証委員会資料（5）及びその議事録 ➢ 2022年度春学期 GPCA 集計結果について（SSI）</li> <li>● 2022年度授業改善アンケート集計結果</li> </ul>	

## 1.2 成績評価、単位認定及び学位授与を適切に行っているか。

1.2①成績評価の客観性、厳格性、公正性、公平性を担保するための措置を講じていますか。	はい
<b>【根拠資料】</b>	
<ul style="list-style-type: none"> <li>● 2022年度 SSI 履修の手引き（HONDANA）</li> <li>● 2022年度 SSI ガイダンス（オンライン：リアルタイムとオンデマンド） <a href="https://www.hosei.ac.jp/ssi/info/article-20220315171202/">https://www.hosei.ac.jp/ssi/info/article-20220315171202/</a></li> <li>● 2022年度 SSI 生共通履修ガイダンス（オンデマンド動画）</li> <li>● 2022年度履修のポイント（PDF）</li> <li>● SSI 参画学部ホームページ「成績評価基準及び GPA 制度について」</li> <li>● SSI 参画学部ホームページ「成績調査について」</li> <li>● 法政大学 Web シラバス <a href="https://syllabus.hosei.ac.jp/web/show.php?nendo=2023&amp;gakubueng=AYA&amp;t_mode=pc">https://syllabus.hosei.ac.jp/web/show.php?nendo=2023&amp;gakubueng=AYA&amp;t_mode=pc</a></li> <li>● 2022年度第6回 SSI 運営委員会及び質保証委員会資料（2）及びその議事録 ➢ カリキュラム・ポリシーに基づくシラバス第三者確認について</li> <li>● 2021年度秋学期 GPCA 集計結果について（SSI） ➢ 2022年度第2回 SSI 運営委員会及び質保証委員会資料（9）及びその議事録</li> <li>● 2022年度春学期 GPCA 集計結果について（SSI） ➢ 2022年度第6回 SSI 運営委員会及び質保証委員会資料（5）及びその議事録</li> </ul>	

※ 回答欄「はい・いいえ」は法令要件やその他の基礎的な要件の充足を点検している。

## 1.3 学位授与方針に明示した学生の学習成果を適切に把握及び評価しているか。

1.3①分野の特性に応じた学習成果を測定するための指標の適切な設定をしていますか。	はい
1.3②分野の特性に応じた学習成果を測定するための指標に基づき学生の学習成果を把握していますか。	はい
1.3③学習成果を可視化していますか。	はい
<b>【根拠資料】</b>	
<ul style="list-style-type: none"> <li>● 2022年度 SSI 履修の手引き (HONDANA)</li> <li>● 2022年度 SSI ガイダンス (オンライン:リアルタイムとオンデマンド) <a href="https://www.hosei.ac.jp/ssi/info/article-20220315171202/">https://www.hosei.ac.jp/ssi/info/article-20220315171202/</a></li> <li>● 2022年度 SSI 生共通履修ガイダンス (オンデマンド動画)</li> <li>● 2022年度履修のポイント (PDF)</li> <li>● SSI 参画学部ホームページ「アセスメント・ポリシー」</li> <li>● 法政大学 Web シラバス <a href="https://syllabus.hosei.ac.jp/web/show.php?nendo=2023&amp;gakubueng=AYA&amp;t_mode=pc">https://syllabus.hosei.ac.jp/web/show.php?nendo=2023&amp;gakubueng=AYA&amp;t_mode=pc</a></li> <li>● 2021年度秋学期 GPCA 集計結果について (SSI) <ul style="list-style-type: none"> <li>➢ 2022年度第2回 SSI 運営委員会及び質保証委員会資料 (9) 及びその議事録</li> </ul> </li> <li>● 2022年度春学期 GPCA 集計結果について (SSI) <ul style="list-style-type: none"> <li>➢ 2022年度第6回 SSI 運営委員会及び質保証委員会資料 (5) 及びその議事録</li> </ul> </li> </ul>	

1.4 教育課程及びその内容、方法の適切性について定期的に点検・評価を行っているか。  
また、その結果をもとに改善・向上に向けた取り組みを行っているか。

1.4①授業改善アンケート結果を組織的に利用していますか。	はい
1.4②大学評価室による学生調査結果 (入学前アンケート・1年生アンケート・卒業生アンケート) を組織的に利用していますか。	はい
<b>【根拠資料】</b>	
<ul style="list-style-type: none"> <li>● 2022年度第1回 SSI 運営委員会資料 (4) 及びその議事録 <ul style="list-style-type: none"> <li>➢ 2021年度卒業生向けアンケート集計結果について</li> </ul> </li> <li>● 2022年度第2回 SSI 運営委員会資料 (11) <ul style="list-style-type: none"> <li>➢ (大学評価室) による卒業生を対象としたアンケート (抜粋)</li> </ul> </li> <li>● 2022年度第1回 SSI 運営委員会資料 (5) 及びその議事録 <ul style="list-style-type: none"> <li>➢ 2021年度体育会アンケート集計結果について</li> </ul> </li> <li>● 2022年度第1回 SSI 運営委員会資料 (6) 及びその議事録 <ul style="list-style-type: none"> <li>➢ 2021年度「学生による授業改善アンケート」全学集計結果 (SSI) について</li> </ul> </li> </ul>	

## (2) 特色・課題

以下の項目の中で、SSIとして特に「特色」として挙げられるもの、もしくは「課題」として今後改善に取り組んでいきたいものを選択し、記入をしてください。	
<b>【教育課程・教育内容】【教育方法】【学習成果】</b> それぞれの項目の中で「特色」または「課題」を選択し、内容について記入してください。	
<b>【教育課程・教育内容】</b>	
<ul style="list-style-type: none"> <li>・学生の能力育成のための、教育課程の編成・実施方針に基づいた教育課程・教育内容の適切な提供</li> <li>・初年次教育・高大接続への配慮</li> <li>・学生の社会的及び職業的自立を図るために必要な能力を育成するキャリア教育の適切な実施</li> </ul>	
特色	初年次教育・高大接続への配慮
<ul style="list-style-type: none"> <li>● SSI では初年時教育の一環として、保健体育センターが主催する新入体育会学生を対象としたオリエンテーションに SSI 学生専用の時間を設け、SSI 執行部が中心となり入学前ガイダンスを行っている。本ガイダンスには、SSI 科目担当教員も参加</li> </ul>	

※ 回答欄「はい・いいえ」は法令要件やその他の基礎的な要件の充足を点検している。

<p>(任意) しており、参加した全教員より体育会活動と学業の必要性及び諸注意について伝えている。形式は、新型コロナウイルス感染症を機にオンライン (zoom によるリアルタイムとオンデマンド) で行っており、特にオンデマンドではいつでもその内容を確認できる体制を整えている。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>2024 年度より実施される新カリキュラムにおいて、初年時教育に関わる科目 (スポーツ学入門) を必修科目として導入する予定である (SSI 運営委員会で承認済み)。</li> </ul>	
<p><b>【教育方法】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>教育上の目的を達成するための、効果的な授業形態の導入 (PBL、アクティブラーニング、オンデマンド授業等)</li> <li>授業がシラバスに沿って行われているかの検証 (後シラバスの作成、相互授業参観、アンケート等)</li> </ul>	
特色	<p>教育上の目的を達成するための、効果的な授業形態の導入 (PBL、アクティブラーニング、オンデマンド授業等)</p>
<ul style="list-style-type: none"> <li>これまで、学生が主体的かつ能動的に学ぶことができる、効果的な授業形態について、SSI 運営委員会及びカリキュラム委員会で協議してきた。科目の内容や特徴によっては、アクティブラーニングを導入し、その成果は学生アンケートなどから把握している。</li> <li>2024 年度より実施される新カリキュラムの指針となる、SSI のカリキュラムポリシーでは、学生が能動的に学ぶことができる「アクティブラーニング」を定めている。ポリシーに沿った科目の一つに、少人数で行う「ゼミ形式」を取り入れる予定である。また初年次教育科目として「スポーツ学入門」を検討しているが、SSI 生の修学の特徴を考慮して、開講キャンパス、曜日、時限に影響されない「フルオンデマンド」で実施する予定である。</li> </ul>	
<p><b>【学習成果】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>成績評価及び単位認定を行うための制度や学位授与の実施手続き及び体制についての適切な運用。</li> <li>学習成果を把握する取り組み</li> <li>学習成果を定期的に検証し、その結果をもとにした教育課程およびその内容、方法の改善・向上に向けた取り組み</li> </ul>	
特色	<p>学習成果を定期的に検証し、その結果をもとに教育課程およびその内容、方法の改善・向上に向けた取り組み</p>
<ul style="list-style-type: none"> <li>SSI 運営委員会を定期的に開催し、大学が集計したアンケート結果をもとに一般学生と比較検討し、学習成果について把握している。また学期末に開催される運営委員会の後には、質保証委員会及びカリキュラム委員会を開催し、教育課程及びその内容、方法の改善・向上についても検討している。</li> <li>また、各学部から選出されている運営委員は、SSI 基礎科目及び専門科目も担当している場合が多いため、学習成果の把握や改善が円滑に行われている。</li> </ul>	
<p>その他、上記項目以外で SSI として「特色」として挙げられるもの、または「課題」として今後改善に取り組んでいきたいものがありましたら記入してください。</p>	
特色	
<ul style="list-style-type: none"> <li>SSI では、キャリア教育の一環として、「アスリートキャリア論」を開講しており、スポーツに関連した様々な業種 (スポーツ政策・行政、NPO 団体、プロアスリートなど) で活躍する方々を講師に招き、現場の紹介や今後の可能性などについて、講義を行ってもらっている。本科目ではその時々合わせた内容や講師の専門性を重視しており、オムニバス形式の授業形態をとっている。</li> <li>SSI では、SSI 基礎科目及び専門科目について、「対面」で実施することを基本としている。「オンライン」による授業形態の良さは十分であると認識しつつも、SSI 学生は、多くの時間を体育会の練習に費やしており、修学や就職に関する情報などを逸してしまうことが多いため、そのフォローができる。また「対面」で行うことで、生活習慣が維持され、競技においても有用であると考え。とはいえ、学生アンケートからは、「オンライン」授業の要望もあるため、今後も特色である「対面」を維</li> </ul>	

※ 回答欄「はい・いいえ」は法令要件やその他の基礎的な要件の充足を点検している。

持しつつも、「オンライン」に適した科目を検討していきたい。
<b>課題</b>
<ul style="list-style-type: none"> <li>SSI 生は、参画しているそれぞれの学部（10 学部）に所属しており、所属学部の方針により、成績評価・単位認定がなされている。その一方で、44 単位を SSI 基礎科目及び専門科目で取得しなければならない。卒業単位の約 1/3 に相当する SSI 科目において、その履修状況や成績不振者についての状況を把握することは、学位授与に関して重要な役割であると考えため、SSI 運営委員会では各学部と連携して成績（GPA）について、議論している。しかし、各学生を個々に丁寧に把握できるわけではないため、今後学部と連携して特に成績不振者の把握に取り組んでいきたい。その一つとして、SSI 運営委員会に学習アドバイザーを設置して、学習指導を行うなどの対策を検討していきたい。</li> </ul>

## 2 教員・教員組織

### (1) 点検・評価項目における現状

#### 2.1 教員の資質の向上を図るための方策を組織的かつ多面的に実施し、教員及び教員組織の改善につなげているか。

2.1①SSI 内の F D 活動は組織的に行われていますか。	はい
2.1②上記項目について【はい】と回答した場合は、2022 年度の FD 活動の実績（開催日・テーマ・参加人数）を記入してください。	
<p>SSI では FD 活動の一環として、SSI 主催科目を担当する専任教員に対して、授業相互参観を行った。</p> <p>(1) 実施方法</p> <p>SSI 運営委員会において、提供可能な科目を問い合わせ、対象科目を決定したのち、SSI 執行部（委員長、副委員長の 2 名）が参観を行った。</p> <p>(2) 実施時期</p> <p>2022 年 11 月～12 月の間、科目担当教員と相談の上実施した。</p> <p>(3) 授業実施者へのフィードバックなど</p> <p>各参観者により、以下の観点で授業実施者へフィードバック、より良い授業展開に向けた懇談を行った。その後、実施内容を執行部内で共有し、運営委員会で報告を行った。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>同じスポーツ科学を取り扱う科目でも、多様な授業展開方法があることを知れたことが最も有意義な点であった。</li> <li>参観した授業では、用語の具体的な定義を授業冒頭にあえて説明せず、イメージしやすいスポーツや日常生活の場面から入り、少しずつ踏み込んだトピックに触れることで具体化し、理解を深めさせるような形式を用いていた。</li> <li>今日では学生の主体的な学びが求められており、それに資するヒントも得られた。授業時間の中盤辺りにグループディスカッションを設けるなどがその典型である。</li> <li>一方、それだけでは学生同士が各グループで意見を共有するに留まってしまう。そこで、インタラクティブアプリを活用し、匿名性を保持したまま寄せられた意見を共有したり、授業の最後に簡単な Web テストを実施したりするなど、一定のハードルを課しながらも、学習意欲を内発的に喚起できるような授業環境を整備する重要性も再確認することができた。</li> </ul> <p>(4) 課題</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>実施科目が少なかった。</li> <li>その理由として、本制度の趣旨や意義を科目担当教員に十分理解してもらえていない可能性が考えられるため、今後 SSI 運営委員会で更なる説明をして周知を図っていく。</li> </ul>	

※ 回答欄「はい・いいえ」は法令要件やその他の基礎的な要件の充足を点検している。

- 実施期間の延長などを検討して、実施科目数を増やす。
- 得られた情報を、今後の SSI 科目にどのように反映できるか、検討を行う。
- 現在、専任教員を対象に実施しているが、兼任講師まで範囲を広げて検討していく。

### 3 学生支援

#### (1) 特色・課題

以下の項目の中で、SSI として特に「特色」として挙げられるもの、もしくは「課題」として今後改善に取り組んでいきたいものを選択し、内容について記入をしてください。	
【学生支援】	
<ul style="list-style-type: none"> <li>● 学生の能力に応じた補習教育、補充教育</li> <li>● 学生の自主的な学習を促進するための支援</li> <li>● 学習の継続に困難を抱える学生（留年者、退学希望者等）への対応</li> <li>● 成績不振の学生の状況把握と指導</li> <li>● オンライン教育を行う場合における学生への配慮（相談対応、授業計画の視聴機会の確保等）</li> </ul>	
特色	学習の継続に困難を抱える学生（留年者、退学希望者等）への対応
<ul style="list-style-type: none"> <li>● 履修や修学のポイントについて大学ホームページ上に、SSI カリキュラム委員が作成した動画等の資料をあげている。また科目担当教員全員が、オフィスアワーを設けており、学生からの個別の質問や相談に対応している。</li> <li>● 修学の継続に困難を抱える学生に対して、対象学生が所属する学部事務を通じて、執行部と連携をとり対応している。また必要に応じて、所属クラブ（体育会）の部長、監督とも連携をとる仕組みを整えている。</li> </ul>	
その他、上記項目以外で SSI として「特色」として挙げられるもの、または「課題」として今後改善に取り組んでいきたいものがありましたら記入してください。	
特色	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 2022 年度は学生モニター制度を活用して、SSI 学生（9 名）から聞き取りを行い、学生目線で修学環境に関する様々な意見徴収を行う機会を設けている。</li> <li>● SSI 運営委員会において、所属クラブごとの GPA を算出して、運営委員に報告している。また必要に応じて、所属クラブ（体育会）の部長、監督とも連携をとる仕組みを整えている。</li> </ul>
課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>● SSI 学生は、体育会活動の時間が様々であり、また遠征などで海外にでる場合もあるため、学生からの質問や相談など、WEB による SSI 生専用の相談窓口を開設して、広く学修活動を支援する体制づくりを進めていきたい。</li> </ul>

### III 2022 年度中期目標・年度目標達成状況報告書

評価基準	内部質保証	
中期目標	SSI 質保証委員会における実効的な内部質保証を安定化させる。	
年度目標	シラバスチェックを担う第三者委員会と新カリキュラム編成を担うカリキュラム委員会を適宜開催する。	
達成指標	少なくとも、両委員会を各学期中に一度、年度末に一度開催する。	
年度末報告	教授会執行部による点検・評価	
	自己評価	S
	理由	内部質保証として、21 年度につづき、2 名の質保証委員を選出した。主な役割としてシラバスチェックを行い、授業の質担保に努めた。2024 年度から始まる新カリキュラム検討会議（学期末に 1 回実施）にオブザーバーとして参加し、意見も述べてもらった。
	改善策	—

※ 回答欄「はい・いいえ」は法令要件やその他の基礎的な要件の充足を点検している。

評価基準	教育課程・学習成果【教育課程・教育内容に関すること】	
中期目標	1. 新カリキュラムに関係するポリシーを策定する。 2. 各種ポリシーに準じた新カリキュラムの科目とその内容を精査する。	
年度目標	1. 本インスティテュートの抜本的なカリキュラム変更を見据え、カリキュラムポリシーを更新する。 2. 新カリキュラムで開講する科目の候補をまとめる。	
達成指標	1. 現行のカリキュラムポリシーを新カリキュラムに合わせて更新する。 2. 新たなカリキュラムポリシーに準じて、新カリキュラムの基幹科目を策定する。	
年度末報告	教授会執行部による点検・評価	
	自己評価	S
	理由	春学期の運営委員会において、2024年度から開始される新カリキュラムのカリキュラムポリシーを検討した。その結果、現行のカリキュラムポリシーに一部修正加筆することで運営委員会で承認を得た。 また秋学期から現在まで、承認された新カリキュラムポリシーに沿って、カリキュラム委員会で新カリキュラムの具体的な検討が始まった。新カリキュラム策定にあたり、執行部教員による学生との懇談会を実施し、現カリキュラムに関するヒアリングも行った。
	改善策	—
評価基準	教育課程・学習成果【教育方法に関すること】	
中期目標	1. SSI生が文武両道を実現するための多様な学習方法について検討する。 2. SSI生が主体的に学び、学びを深める上で有用な教授方法を各授業担当教員に周知して実装する。	
年度目標	1. カリキュラム変更と合わせ、オンデマンド授業開講の可能性について検討する。 2. 同一名称科目の授業計画やオンラインを用いた市ヶ谷・多摩共同開講の可能性について検討する。 3. アクティブラーニングを実践している科目担当者よりノウハウを共有してもらおう。	
達成指標	1. オンデマンド授業の長所と短所について精査する。 2. FDミーティングを開催して情報共有する。	
年度末報告	教授会執行部による点検・評価	
	自己評価	S
	理由	本年度の授業方針として、SSIでは独自のルールを設け、原則対面授業を実施した。その中でも、申請のあった科目については、理由を執行部で精査し、オンラインによる開講を認めた。 年度末のカリキュラム委員会において、オンデマンドで実施した科目担当者に意見徴収を行ない、長所・短所を検討した。また、学生モニターに参加した学生からもオンライン授業に関する有用な意見を聴取している。
	改善策	—
評価基準	教育課程・学習成果【学習成果に関すること】	
中期目標	1. SSI生の学習現状について把握する。 2. SSI生の競技・日常生活においてより実用的な学習内容を検討する。	
年度目標	SSI生を対象としたアンケートを実施して、SSI生の学習状況・成果を把握し、一般学生と比較する。	
達成指標	1. 大学が実施しているアンケートを利用し、SSI生に関する箇所（結果）を抽出して共有する。	

※ 回答欄「はい・いいえ」は法令要件やその他の基礎的な要件の充足を点検している。

	2. SSIに参加している各学部から SSI 生の GPA を共有してもらう。	
年度末報告	教授会執行部による点検・評価	
	自己評価	S
	理由	学内で実施しているアンケートの結果を分析し、運営委員会において共有した。 また年度末の委員会では、各学部から参加している運営委員に、SSI 生の GPA を共有することについて意見徴収を行った。
	改善策	—
評価基準		教員・教員組織
中期目標	1. 新カリキュラムを編成し、運営していくための体制を強化する。 2. スポーツ研究センターおよび所属する教員と連携を強化する。	
年度目標	1. 新カリキュラムについて運営委員会で議題に挙げ、委員から広く意見を募る。 2. カリキュラム委員会を適宜開催し、新カリキュラムの全容を具体化していく。 3. SSI と連携を促進してもらえよう、スポーツ研究センター運営委員会に依頼する。 4. オンライン授業に関する各種情報を収集し、必要に応じて支援策を講じる。	
達成指標	1. 各運営委員会で新カリキュラムに関する議題を設定する。 2. カリキュラム委員会を定期（各学期 1 回）開催する。追加で適宜開催し、新カリキュラムに関する各種情報を提供してもらう。 3. スポーツ研究センター運営委員会に参加して連携を要請する。 4. 数名の教員にヒアリングを行い、オンライン授業に関する情報を得る。	
年度末報告	教授会執行部による点検・評価	
	自己評価	S
	理由	定期的に開催した運営委員会（メール審議を除く）において、毎回新カリキュラムに係る議題を設定し、協議した。 また委員会と合わせて、カリキュラム検討委員会を開催し、議論を行った。実際に SSI 科目をオンラインで実施した教員に対して、オンライン授業の効果、成績評価など対面授業との比較に関する意見を徴収し、新カリキュラムに向けて情報を得た。
	改善策	—
評価基準		学生支援
中期目標	1. SSI に参加している各学部や体育会各部と連携を深める。 2. SSI 生を対象としたアンケートを充実させ、SSI 生の学習・競技活動の実態を把握する。 3. SSI 生に向けた新入生オリエンテーションや在校生ガイダンスを充実させる。 4. SSI 生のキャリア支援について、関係部局と連携して検討する。	
年度目標	1. SSI 生を対象としたアンケートの集計結果を各学部教員と共有する。 2. SSI 生のキャリア支援について、関係部局と情報を交換する。 3. アカデミックアドバイザーを設置し、SSI 生の修学を支援する。	
達成指標	1. 運営委員会において、SSI 生を対象としたアンケートの結果を共有する。 2. キャリアセンターと連携し、SSI 生に対して情報を発信する。 3. 各キャンパスの相談室と連携し、SSI 学生に対して情報を発信する。	
教授会執行部による点検・評価		

※ 回答欄「はい・いいえ」は法令要件やその他の基礎的な要件の充足を点検している。

年度末報告	自己評価	S
	理由	SSI 生（卒業生）に対して実施したアンケートの結果を、運営委員会で共有した。 キャリアセンターに対して、体育会学生に向けた情報発信を依頼し、本年度はアスリートキャリア論で実際に講義してもらった。またキャリアセンター内において専用の窓口を設けている。 SSI 新入生ガイダンスでは、学生相談室について情報発信している。また SSI 生が所属する部単位での相談依頼体制も整っている。
	改善策	—
評価基準		社会連携・社会貢献
中期目標		SSI が所有する資源を有効活用する方策について検討する。
年度目標		1. オンライン授業あるいは多摩・小金井キャンパスでの開講について検討する。 2. スポーツ関連学部に関心のある高校生や高校に対して出前授業を行う。
達成指標		1. 引き続き、履修証明プログラムの実施・運営に協力する。 2. 入学センターから情報を得る。
教授会執行部による点検・評価		
年度末報告	自己評価	A
	理由	履修証明プログラムに関しては、学務と連携して広く門戸を開いているが、22 年度も受講者がなかった。一方、新カリキュラム編成が進む中で、社会貢献・社会連携に資する科目についても検討を進めている。 高校生及び高校に対しての出前授業については、入学センターと連携して要望があれば、いつでも対応できる体制が整っている。
	改善策	—
【重点目標】 2024 年度にカリキュラム改訂を実施する予定である。発足以来、初めてのカリキュラム変更となるため、これまでの課題を踏まえ、新カリキュラムの骨子を策定する。		
【目標を達成するための施策等】 現行のカリキュラムポリシーを見直し、現状と展望に即したカリキュラムポリシーを策定する。		
【年度目標達成状況総括】 2022 年度は、中期目標が 4 年ぶりに改訂された初年時であった。前回の中期目標は 2018 年から 2021 年度までであったが、前回の目標と今回改定した目標との異なる点は、2020 年から継続する新型コロナウイルスの影響により、オンラインによる開講形態が創設され、その運用に関する点であろう。22 年度に大学が定めた授業基本方針は、対面を基本とした一方で、大規模授業を中心にその他、必要に応じてオンライン授業を組み入れる内容であった。それを受けて SSI では、対面授業を基本にすることを各教員に強く要請した。理由は学業と体育会活動の両立を目指すため、生活習慣（教室で講義を受けること）の確立と対面授業にあるメリット（効果）を重視したこと、何よりも学生と教員、学生同士のコミュニケーションを重視したためである。一方で、2024 年度からスタートする新カリキュラム編成も同時に進めてきたが、学生モニター制度を利用して SSI 生から意見を伺った結果、オンライン授業への期待や要望が一定程度あったことも事実である。今年度の評価基準項目のうち、教育課程・学習成果及び教員・教員組織の年度目標には、オンライン授業に関する質保証として、新カリキュラムに向けたオンライン導入を検討すると目標を掲げており、ほぼ達成できている。また新カリキュラムに向けての準備も整ってきている。学生支援については、前年度から引き継いでいるキャリアセンター、学生相談室		

※ 回答欄「はい・いいえ」は法令要件やその他の基礎的な要件の充足を点検している。

との連携も滞りなく進んでいる。課題としては、社会貢献・社会連携について、目標を達成するために執行部を中心にさらなる努力とアイデアが必要である。

#### IV 2023 年度中期目標・年度目標

評価基準	内部質保証
中期目標	SSI 質保証委員会における実効的な内部質保証を安定化させる。
年度目標	1. シラバスチェックをも担う質保証委員会とカリキュラム委員会を適宜開催する。 2. 内部質保証を安定させるため、質保証委員についての見直しを行う。
達成指標	1. 各学期末に行う、運営委員会に合わせて両委員会を開催する。 2. 質保証委員会において、質保証委員の役割について再検討し、運営委員会に諮る。
評価基準	教育課程・学習成果【教育課程・教育内容に関すること】
中期目標	1. 新カリキュラムに関係するポリシーを策定する。 2. 各種ポリシーに準じた新カリキュラムの科目とその内容を精査する。
年度目標	1. 新カリキュラムに向けて改訂したポリシーを最終決定する。 2. カリキュラムポリシーに沿って新カリキュラムを確定し、基礎・専門科目を決定する。
達成指標	新カリキュラムに向けて改訂したポリシーに沿って、基礎科目及び専門科目を確定する。
評価基準	教育課程・学習成果【教育方法に関すること】
中期目標	1. SSI 生が文武両道を実現するための多様な学習方法について検討する。 2. SSI 生が主体的に学び、学びを深める上で有用な教授方法を各授業担当教員に周知して実装する。
年度目標	1. 新カリキュラムにおけるオンライン授業のあり方を検討し、実施に関わる要件をまとめる。 2. カリキュラム変更に合わせて、アクティブラーニングに適した少人数科目を検討する。
達成指標	1. オンデマンド形式に適した科目を選定し、オンデマンドの特性を活かした開講について具体的に検討する。 2. 演習をはじめとする少人数科目の開講について検討する。
評価基準	教育課程・学習成果【学習成果に関すること】
中期目標	1. SSI 生の学習現状について把握する。 2. SSI 生の競技・日常生活においてより実用的な学習内容を検討する。
年度目標	1. SSI 生を対象にアンケートを実施し、学習状況及び学習成果を把握する。 2. SSI 生が所属する各学部と連携して GPA を共有してもらい、学習成果を把握する。
達成指標	1. 大学が実施するアンケートを利用して、SSI 生に関するデータを抽出し、運営委員会で共有する。 2. 一般学生のアンケート結果を参考に、SSI 生の現状について運営委員会で共有する。
評価基準	教員・教員組織
中期目標	1. 新カリキュラムを編成し、運営していくための体制を強化する。 2. スポーツ研究センターおよび所属する教員と連携を強化する。
年度目標	1. 学内のスポーツに関わりのある教職員に新カリキュラムの運営協力を依頼する。

※ 回答欄「はい・いいえ」は法令要件やその他の基礎的な要件の充足を点検している。

	2. 新カリキュラムのポリシー及びカリキュラム内容を、SSI 参画学部に関連のある教職員に協力を依頼する。
達成指標	1. スポーツ健康学部教員をはじめとする、SSI 参画学部以外のスポーツに関連のある教職員に協力を依頼する。 2. SSI 参画学部教授会を通じて、科目担当者に依頼する。
評価基準	学生支援
中期目標	1. SSI に参加している各学部や体育会各部と連携を深める。 2. SSI 生を対象としたアンケートを充実させ、SSI 生の学習・競技活動の実態を把握する。 3. SSI 生に向けた新入生オリエンテーションや在校生ガイダンスを充実させる。 4. SSI 生のキャリア支援について、関係部局と連携して検討する。
年度目標	1. 学生を対象とした各種アンケートの集計結果を各学部教員と共有する。 2. 学生アスリートのキャリア支援の方策について、関係部局（キャリアセンターなど）と連携する。 3. アカデミックアドバイザーを設置し、SSI 生の修学を支援する。 4. SSI 生が抱える様々な問題に対応するため、学生センター（学生相談室を含む）と連携を深める。
達成指標	1. 運営委員会において、学生を対象としたアンケートの集計結果を共有する。 2. 大学キャリアセンターと連携し、SSI 学生に対して情報を発信する。 3. 体育会の部長・監督連絡会を通じて、学生の修学に関してサポートを依頼する。 4. 各キャンパスの相談室と連携し、SSI 学生に対して情報を発信する。
評価基準	社会連携・社会貢献
中期目標	SSI が所有する資源を有効活用する方策について検討する。
年度目標	1. 新カリキュラムに向けて、オンデマンド授業の導入について検討し、履修証明プログラム（科目履修生）の活性化を目指す。 2. スポーツ関連学部に関心のある高校生及び高校に対して出前授業を行う。 3. 千代田区コンソーシアムと連携して、SSI 科目の拠出を検討する。
達成指標	1. 履修証明プログラムの実施・運営に協力する。 2. 入学センターと連携し、情報を得る。 3. 関連部署と連携し、科目の拠出について検討する。
<p><b>【重点目標】</b></p> <p>1. 2024 年度から運用する新カリキュラムについて、これまでの議論を踏まえて最終調整を行う。</p> <p>2. 学生支援の充実化に向けて、実効可能な方策を検討する。</p> <p><b>【目標を達成するための施策等】</b></p> <p>1. 新カリキュラムのカリキュラムポリシー及びカリキュラムツリーを確定する。</p> <p>2. カリキュラムポリシーに沿った新カリキュラムの科目を確定する。</p> <p>3. オンライン（特にオンデマンド）に適した科目を選定し、運用の是非について具体的に検討する。</p> <p>4. 新カリキュラムについて関係部局に依頼し、SSI 生ガイダンス及び SSI 関連ホームページを通じて周知する。</p>	

## 【大学評価総評】

SSI は、優れたスポーツ能力を持つ者が特別推薦入学試験を通じて入学するという、複

※ 回答欄「はい・いいえ」は法令要件やその他の基礎的な要件の充足を点検している。

数学部にわたるインスティテュートであり、その目的は、競技力のある学生に対して、スポーツを科学的小よび文化的な観点から理解することができる教育プログラムを提供することである。そのために SSI は、スポーツ科学専門の科目と各学部が提供する様々な科目を組み合わせたカリキュラムを運用しているが、ここ最近では新カリキュラムの実施に向けて着実に準備を重ねてきており、いよいよ 2024 年度に実施される。今後はこれらの取り組みの成果を評価し、改善策を検討する仕組みが必要となるであろう。また各学部の教員からなる組織で、それぞれの学部での業務に追加する形での様々な SSI 学生支援が行われていることも評価できるであろう。

自己点検・評価書類にて、課題として今後改善に取り組んでいきたいものとして、「SSI 運営委員会に学習アドバイザーを設置して、学習指導を行うなどの対策を検討していきたい」を挙げている。この対策について、2022 年度の総評でも言及されており、おそらく継続課題と考えられるので、引き続き検討が望まれる。また 2022 年度大学評価委員会の評価結果への対応状況にて、2022 年度の総評にて指摘されていた「一般学生と SSI 生の交流を図ることにも努めたい」と回答しているが、2023 年度での重点目標等には含まれていない。今後、具体的な目標の設定が望まれる。

**【法令要件やその他の基礎的な要件の充足状況の確認】**

2023 年度自己点検・評価シートに記載された II 自己点検・評価（1）点検・評価項目における現状を 確認	法令要件やその他の基礎的な要件が充足していることが確認できた
< 法令要件やその他の基礎的な要件が充足していない項目 >	

※ 回答欄「はい・いいえ」は法令要件やその他の基礎的な要件の充足を点検している。

## 連帯社会インスティテュート

## I 2022年度 大学評価委員会の評価結果への対応

## 【2022年度大学評価結果総評】(参考)

連帯社会インスティテュートは、社会人学生に対して3つのプログラムを軸としたカリキュラム編成を行っており、各領域を専攻する教員による講義と論文指導が行われている。特に、オムニバス形式による「連帯社会とサードセクター」は、実務家を中心とした多彩な講師陣による講義であり、これを必修科目とすることによってプログラム横断的な知識と思考力の涵養を実現している点は高く評価できる。また、論文指導においては1年次、2年次に各2回、計4回の「研究報告」を実施するとともに、指導教員を中心とした専任教員3人による共同指導体制により、きめ細かい論文指導が行われている点も高く評価される。

学習成果の測定指標の導入については検討途上であると報告されているが、3-④の所見にも記したように、既に自ずと測定できていることも少なくないと判断されるため、「測定指標」は柔軟に考えて報告されたい。

「教員・教員組織」に関する課題としては、「非常勤の教員の考えのインプット」が掲げられており、非常勤の教員への依存度が高い現状においては適切な課題設定であるといえる一方で、運営委員会の指導力を発揮すれば比較的解決は容易であると思われることから、当該課題については本年度において解決されることが期待される。

重点目標である「学生支援における学習支援」に対しては、所属学生には就労にともなう時間的な制約があることを踏まえた施策の必要性が認識されており、特に学生間のコミュニケーションや連携の促進と共通のニーズを把握するための方法の検討が掲げられている。所属学生の属性に一对一で対応することは困難であるとしても、本インスティテュートの特性を活かした方策の具体化が望まれる。

なお、自己点検・評価シートにおける「問題点」、「長所・特色」については「特になし」の記載が少なからず見受けられたが、本インスティテュートの設立趣旨に則った独自の取り組みや、教員・教員組織、及び所属学生の経歴・職歴の特性等の視点から何らかの記載がなされるべきであるといえる。本インスティテュートは東京の有力大学の中では稀少価値のある存在なので、長所・特色についてもう少し自己肯定的なアピールをされたほうがよいと考える。

## 【2022年度大学評価委員会の評価結果への対応状況】

学習成果の測定指標としては少人数教育の特性を踏まえて柔軟な導入を心がける。また、非常勤教員と受入窓口となる教員との間では密なコミュニケーションが図られているが、今年度はさらに当該情報をプログラム間で共有できる機会を制度的に構築できるよう改善を図りたい。

就労学生の多くが指定団体推薦であり、2015年の設置から多数のOBを輩出できている環境を踏まえ、関連団体や同一所属組織のOB等が相談に乗れるようOBと新入生を事前に繋ぐよう心がけている。これにより入学後に学修を進めるにあたっての不安点を解消するなど、OBがメンターとしての役割を發揮してくれるようになった。

長所・特色については、今回の調書以降、なるべく具体的に長所・特色等についての記載を充実させるよう努めたい。

## II 自己点検・評価

## 1 教育課程・学習成果

(1) 点検・評価項目における現状

1.1 授与する学位ごとに、学位授与方針を定め、公表しているか。

1.1①授与する学位ごとに、学位授与方針(ディプロマ・ポリシー)を記入してください。

修士課程 修士(学術)

※ 回答欄「はい・いいえ」は法令要件やその他の基礎的な要件の充足を点検している。

<p>修士課程に2年間以上在学し、36単位を修得し、修士論文を執筆し、以下に示す水準に達した学生に対して修士（学術）を授与する。</p> <p>DP1. NPO/NGOや社会的企業、協同組合、労働組合などに求められる社会的役割を認識している。</p> <p>DP2. 連帯社会構築のための具体的政策を構想する研究能力を獲得している。</p> <p>DP3. 実践の場において高度の専門性を発揮しうる能力を獲得している。</p>	
1.1②上記のディプロマ・ポリシーには、授与する学位において学生が修得することが求められる知識、技能、態度等、当該学位にふさわしい学習成果が示されていますか。	はい
1.1③上記のディプロマ・ポリシーを公表していますか。	はい
【根拠資料】	
<p>法政大学大学院公式 HP</p> <p><a href="https://www.hosei.ac.jp/hosei/daigakugaiyo/rinen/hoshin/gakui_juyo/daigaku_in/">https://www.hosei.ac.jp/hosei/daigakugaiyo/rinen/hoshin/gakui_juyo/daigaku_in/</a></p>	

## 1.2 授与する学位ごとに、教育課程の編成・実施方針を定め、公表しているか。

1.2①授与する学位ごとに、教育課程の編成・実施方針（カリキュラム・ポリシー）を記入してください。	
<p>本インスティテュートの教育理念は、各プログラムにおいて連帯社会の構築に求められる専門領域の学習を基軸に据えて、研究を推進し、高度に専門的な知識を備えた実践的な人材を輩出することである。こうした理念を実現するため、以下の方針に沿ったカリキュラムを編成している。</p> <p>①学生全員に対しNPO/NGOや社会的企業、協同組合、労働組合に関する幅広い知識を獲得させるため、それぞれの概論を専門基礎科目として配置する。 また「連帯社会とサードセクター」というオムニバス授業を配置し、それぞれの分野で活躍する専門家から「連帯社会」の実践について学習する機会を設ける。</p> <p>②NPO、協同組合、労働組合のプログラムごとに、より深い知識を獲得させるため選択必修科目を設ける。</p> <p>③各プログラムに関連した選択科目を配置し、学生の志向に応じた履修モデルを提示する。</p> <p>④修士論文の構想、執筆を支援するためプログラム横断的に「研究報告」を年に2回行い、教員全体で集团的に指導する。</p>	
1.2②上記のカリキュラム・ポリシーには、授与する学位において学習成果の達成を可能とするための教育課程の編成（教育課程の体系、教育内容）・実施（教育課程を構成する授業科目区分、授業形態等）方針が示されていますか。	はい
1.2③上記のカリキュラム・ポリシーを公表していますか。	はい
【根拠資料】	
<p>法政大学大学院公式 HP</p> <p><a href="https://www.hosei.ac.jp/hosei/daigakugaiyo/rinen/hoshin/kyoiku_katei/daigaku_in/">https://www.hosei.ac.jp/hosei/daigakugaiyo/rinen/hoshin/kyoiku_katei/daigaku_in/</a></p>	

## 1.3 教育課程の編成・実施方針に基づき、各学位課程にふさわしい授業科目を開設し、教育課程を体系的に編成しているか。

1.3①「法政大学大学院学則」第15条（「単位」）に基づいた単位設定を行っていますか。	はい
---	----

## 1.4 学生の学習を活性化し、効果的に教育を行うための様々な措置を講じているか。

※ 回答欄「はい・いいえ」は法令要件やその他の基礎的な要件の充足を点検している。

1.4①学生の履修指導を適切に行っていますか。	はい
1.4②シラバスの内容の適切性と授業内容とシラバスの整合性を確保していますか。	はい
1.4③研究指導計画（研究指導の内容及び方法、年間スケジュール）を書面で作成し、あらかじめ学生が知ることのできる状態にしていますか。	はい
1.4④研究指導計画に基づく研究指導、学位論文指導を行っていますか。	はい
<b>【根拠資料】</b>	
法政大学シラバス（③④については、論文指導Ⅰ・Ⅱとしてシラバス上にも記載）。 法政大学大学院連帯社会インスティテュート公式 HP に「法政大学大学院連帯社会インスティテュート 修士論文の研究指導計画」を掲載。	

## 1.5 成績評価、単位認定及び学位授与を適切に行っているか。

1.5①「法政大学大学院学則」第20条の2（入学前既修得単位の認定）に基づき、既修得単位などの適切な認定を行っていますか。	はい
1.5②「法政大学大学院学則」第22条（修了要件）、第26条（修了要件）に基づき、修了の要件を明確にし、刊行物、ホームページ等のいずれの方法によっても、予め学生に明示していますか。	はい
1.5③成績評価の客観性、厳格性、公正性、公平性を担保するための措置を講じていますか。	はい
1.5④学位論文審査基準を定め、文章等によって予め学生に明示し公表していますか。	はい
<b>【根拠資料】</b>	
各科目の成績評価については、法政大学シラバスに掲載。 法政大学大学院連帯社会インスティテュート公式 HP に「法政大学大学院連帯社会インスティテュート 修士論文の学位論文審査基準」を掲載。	

## 1.6 学位授与方針に明示した学生の学習成果を適切に把握及び評価しているか。

1.6①分野の特性に応じた学習成果を測定するための指標の適切な設定をしていますか。	はい
1.6②分野の特性に応じた学習成果を測定するための指標に基づき学生の学習成果を把握していますか。	はい
1.6③学習成果を可視化していますか。	はい
<b>【根拠資料】</b>	
科目毎に法政大学シラバスに掲載するとともに、③については連帯社会インスティテュート独自のアンケートにおいて学生自身による学習成果の自己評価を設問に入れている。	

1.7 教育課程及びその内容、方法の適切性について定期的に点検・評価を行っているか。  
また、その結果をもとに改善・向上に向けた取り組みを行っているか。

1.7①授業改善アンケート結果を組織的に利用していますか。	はい
1.7②大学評価室による学生調査結果（新入生アンケート・修了生アンケート）を組織的に利用していますか。	はい
<b>【根拠資料】</b>	
授業改善アンケートについては、全学共通ではなく連帯社会インスティテュート独自のものをターム毎に実施し、教務委員会で協議している。②については、大学評価室による結果を運営委員会で共有・協議している。	

※ 回答欄「はい・いいえ」は法令要件やその他の基礎的な要件の充足を点検している。

## (2) 特色・課題

以下の項目の中で、 <u>インスティテュートとして特に「特色」として挙げられるもの、もしくは「課題」として今後改善に取り組んでいきたいもの</u> を選択し、記入をしてください。	
【教育課程・教育内容】【教育方法】【学習成果】それぞれの項目の中で「特色」または「課題」を選択し、内容について記入してください。	
【教育課程・教育内容】	
<ul style="list-style-type: none"> <li>・教育目標、ディプロマ・ポリシー、カリキュラム・ポリシーの適切性と関連性の検証</li> <li>・学生の能力育成のための、教育課程の編成・実施方針に基づいた教育課程・教育内容の適切な提供</li> <li>・コースワーク、リサーチワークを適切に組み合わせた教育の提供</li> <li>・専門分野の高度化に対応した教育内容の提供</li> <li>・大学院教育のグローバル化推進のための取り組み</li> </ul>	
特色	修士課程
専門分野の高度化に対応した教育内容の提供	
連帯社会インスティテュートでは、労働組合・協同組合・NPO の人材養成という他大学では見られない独自の教育内容を提供している。教育課程・教育内容については、基礎から応用まで、さらに実務系科目も含め、外部非常勤講師やゲストなどの招聘も含め、最新かつ専門性の高い多様な科目を提供している。	
【教育方法】	
<ul style="list-style-type: none"> <li>・教育上の目的を達成するための、効果的な授業形態の導入（PBL、アクティブラーニング、オンデマンド授業等）</li> <li>・授業がシラバスに沿って行われているかの検証（後シラバスの作成、相互授業参観、アンケート等）</li> </ul>	
特色	修士課程
教育上の目的を達成するための、効果的な授業形態の導入（PBL、アクティブラーニング、オンデマンド授業等）	
社会人大学院生も多く所属するため、オンデマンド授業やハイフレックスの導入を通して学生の履修に困難が生じないよう最善の努力を込めている。また、ZOOMなどのライブオンラインシステムを活用することで、地理的ハードルを越えて、専門性の高いゲスト講師の招聘を可能としている。	
【学習成果】	
<ul style="list-style-type: none"> <li>・成績評価及び単位認定を行うための制度や学位授与の実施手続き及び体制についての適切な運用</li> <li>・学位の水準を保つための取り組み</li> <li>・学習成果を把握する取り組み</li> <li>・学習成果を定期的に検証し、その結果をもとにした教育課程およびその内容、方法の改善・向上に向けた取り組み</li> </ul>	
特色	修士課程
学習成果を定期的に検証し、その結果をもとに教育課程およびその内容、方法の改善・向上に向けた取り組み	
連帯社会インスティテュートでは、科目毎にシラバス準拠性も含む適切な質問項目を配置した履修者対象の独自アンケートを実施し、教務委員会でアンケート結果を共有・協議することで、次年度移行のシラバスや教育内容の改善へと結びつけている。	
その他、上記項目以外でインスティテュートとして「特色」として挙げられるもの、または「課題」として今後改善に取り組んでいきたいものがありましたら記入してください。	
特色	
労働組合・協同組合・NPO という市民社会の発展に資する人材養成という全国で例をみない構成での大学院教育が大きな特色となる。各プログラムを構成する3教員がそれぞれ	

※ 回答欄「はい・いいえ」は法令要件やその他の基礎的な要件の充足を点検している。

れの分野の関連団体とも連携を図るなど、研究と実践との統合も踏まえた独自性の豊かな教育を提供している。

#### 課題

労働組合・協同組合・NPO とともに業界が全国に展開している一方で、卒業には通学を要するため、特に現職をもつ社会人にとっては首都圏以外に教育を提供できないことが大きな課題である。オンライン授業の拡充なども含め、遠隔地に居住・通勤する潜在的学生層に対してリーチできる枠組みを模索している。

## 2 学生の受け入れ

### (1) 点検・評価項目における現状

#### 2.1 学生の受け入れ方針を定め、公表しているか。

2.1①インスティテュートの学生の受け入れ方針（アドミッション・ポリシー）を記入してください。

本インスティテュートは連帯社会の構築に強い意欲を持ち、NPO/NGO や社会的企業、協同組合、労働組合のそれぞれについて幅広い関心を抱く社会人を受け入れる。入学者を選考するために、秋と春に各1回、面接試験を行っている。面接試験では各プログラムにおける学習に必要な基礎知識を確認するとともに、事前に提出された研究計画書に基づいて文章の構成力、研究を進める上での企画力、構想力などを見極める。

2.1②上記のアドミッション・ポリシーには、ディプロマ・ポリシー及びカリキュラム・ポリシーを踏まえた、入学前の学習歴、学力水準、能力等の求める学生像や、入学希望者に求める水準等の判定方法が明確に示されていますか。

はい

2.1③上記のアドミッション・ポリシーを公表していますか。

はい

#### 【根拠資料】

法政大学大学院 HP

[https://www.hosei.ac.jp/hosei/daigakugaiyo/rinen/hoshin/ukeire\\_hoshin/daigaku\\_in/](https://www.hosei.ac.jp/hosei/daigakugaiyo/rinen/hoshin/ukeire_hoshin/daigaku_in/)

#### 2.2 学生の受け入れ方針に基づき、学生募集及び入学者選抜の制度や体制を適切に整備し、入学者選抜を公正に実施しているか。

2.2①アドミッション・ポリシーに基づき、学生募集及び入学者選抜の制度や体制をどのように適切に整備していますか。また、入学者選抜をどのように公正に実施していますか。

指定団体推薦制度を設けているため、学生募集にあたり、全学の進学相談会とともに団体向けの説明・相談会を毎年実施している。受験者の能力選抜はもちろん、社会人大学院生として夜間授業に出席するためには職場（所属組織）の理解が重要な位置を占める。受験者だけではなく所属組織に向けた説明会実施は他大学院では稀であろう。連帯社会インスティテュートの選抜は、3プログラム教員の出席する面接試験とともに、事前の論文および研究計画書を課している。論文では、研究能力を査定し、計画書では2年間での修士研究を適切に遂行できるか実現可能性を考査している。

## 3 教員・教員組織

### (1) 点検・評価項目における現状

#### 3.1 大学の理念・目的に基づき、大学として求める教員像や各学部・研究科等の教員組織の編制に関する方針を明示しているか。

3.1①インスティテュートの求める教員像および教員組織の編成方針を記入してください。

連帯社会インスティテュートでは、労働組合・協同組合・NPO の3プログラムに各1名

※ 回答欄「はい・いいえ」は法令要件やその他の基礎的な要件の充足を点検している。

の専任教員を配置している。その他に政治学研究科や公共政策研究科等から専任教員が4名加わり構成されている。プログラム担当教員は各分野における専門知とともに、「連帯社会」をコンセプトとした三者連携に資する能力も求められる。

### 3.2 教員組織の編制に関する方針に基づき、教育研究活動を展開するため、適切に教員組織を編制しているか。

3.2①インスティテュートの教員組織の編制は、理念・目的、教員組織の編制方針に整合していますか。	はい
3.2②教員組織の規模について、教育研究上必要となる数の専任教員がいますか。	はい
3.2③専任教員の専門性や、主要科目への配置など、教育を実施するうえでどのような体制をとっていますか。	
専任教員の専門性については、各分野の学会等での活動を通し研究遂行能力の点から審査される。主要科目は、労働組合・協同組合・NPOという3領域で基礎から応用までの科目群を配置することで2年間で当該分野への習熟とともに、共通分野を意識した教育を提供している。教務委員会では、特に3プログラムを横断して学生が履修する科目を中心に、定期的に意見交換の機会を設けている。	

### 3.3 教員の募集、採用、昇任等を適切に行っているか。

3.3①教員の募集、採用、昇任等の手続きや運用に関する規程は整備されていますか。	はい
3.3②上記の規定は、公正性、適切性が担保されるよう適切に運用されていますか。	はい
【根拠資料】	
特になし	

### 3.4 教員の資質の向上を図るための方策を組織的かつ多面的に実施し、教員及び教員組織の改善につなげているか。

3.4①インスティテュート内のFD活動は組織的に行われていますか。	はい
3.4②上記項目について【はい】と回答した場合は、2022年度のFD活動の実績（開催日・テーマ・参加人数）を記入してください。	
9月16日に関連教員が集まり、授業アンケートおよび大学評価報告書を素材として主として教育方法や内容の改善に係るFDを実施した。出席者は、中村教授（労働組合プログラム）、伊丹教授（協同組合プログラム）、柏木教授（NPOプログラム）と公共政策研究科の淵元教授の4名。	
3.4③インスティテュート内において研究活動や社会貢献等の諸活動の活性化や資質向上を図るための方策を講じていますか。	はい
3.4④上記項目で【はい】と回答した場合は、研究活動や社会貢献等の諸活動の活性化や資質向上を図るための取り組みの実績（開催日・テーマ・参加人数等）について記入してください。	
連帯社会インスティテュートでは、(公社)教育文化協会連帯社会研究交流センターと緊密な連携を図り、6回の連帯社会連続講座を開催した。参加者は各回30～40名程度で安定した参加者を得ている。開催日・テーマ・講演者は以下の通り。	
第1回「アメリカ労働組合運動の再興？ 投票での勝利の法的意味とその先にある長い道のり」 中窪裕也（一橋大学特任教授）【10/1開催】	

※ 回答欄「はい・いいえ」は法令要件やその他の基礎的な要件の充足を点検している。

- 第2回「働き方改革について」【11/5開催】  
石田光男（同志社大学名誉教授）
- 第3回「文化芸術団体の人材育成の現状と課題」【12/3開催】  
井上美葉子（キャリアコンサルタント、京都国際舞台芸術祭 KYOTO EXPERIMENT 事務局）
- 第4回「地域資源を活用した地域課題の解決策の事業化 姫路発！観光・企業・女性の就労などの支援に取り組む女性たち」【1/21開催】  
玉田恵美（NPO 法人姫路コンベンションサポート代表理事）
- 第5回「連帯とは何か—世界で語られてきた連帯論」【2/18開催】  
馬淵浩二（中央学院大学教授）
- 第6回「互助社会の現状と課題—伝統的な互助慣行から考える—」【3/11開催】  
恩田守雄（経済社会学会会長、前・流通経済大学教授）

また、春学期授業「連帯社会とサードセクター」の一部をILO（国際労働機関）駐日事務所および（一社）日本協同組合連携機構の後援により一般参加者に向け計7回にわたりオンライン連続公開講座として提供した。日程・テーマ・講演者・オンライン申込者数は以下の通り。

- 第1回「社会的連帯経済とはなにか」【5/7開催、参加者196名】  
古沢広祐（國學院大学客員教授・国際開発学会 SSE 研究部会長）
- 第2回「国際ネットワーク①RIPESS」【5/7開催、参加者191名】  
田中滋（アジア太平洋資料センター、RIPESS 社会的連帯経済推進大陸間ネットワーク理事）
- 第3回「途上国開発と社会的連帯経済」【6/4開催、参加者196名】  
佐藤寛（JETRO アジア経済研究所上級主任調査研究員、元国際開発学会会長）
- 第4回「国際ネットワーク②GSEF」【6/4開催、参加者191名】  
丸山茂樹（社会的連帯経済を推進する会コーディネーター）
- 第5回「国際ネットワーク③SSE 国際フォーラム」【7/2開催、196名】  
北島健一（立正大学教授）
- 第6回「ミュニシパリズムの現在」【7/2開催、198名】  
岸本聡子（杉並区長、トランスナショナル研究所アムステルダム）
- 第7回「英国の動きと日本への示唆」【7/9開催、199名】  
藤井敦史（立教大学教授、社会的企業研究会代表）

#### 4 学生支援

##### (1) 特色・課題

以下の項目の中で、インスティテュートとして特に「特色」として挙げられるもの、もしくは「課題」として今後改善に取り組んでいきたいものを選択し、内容について記入をしてください。

##### 【学生支援】

- ・学生の能力に応じた補習教育、補充教育
- ・学生の自主的な学習を促進するための支援
- ・学習の継続に困難を抱える学生（留年者、退学希望者等）への対応
- ・成績不振の学生の状況把握と指導
- ・外国人留学生の修学支援
- ・オンライン教育を行う場合における学生への配慮（相談対応、授業計画の視聴機会の確保等）

特色	修士課程
学生の自主的な学習を促進するための支援	

※ 回答欄「はい・いいえ」は法令要件やその他の基礎的な要件の充足を点検している。

各プログラムの論文指導 I・II の授業以外に、各学年春・秋計 2 回の修士研究中間報告会を開催している。ゼミ・プログラムを横断して 1・2 年全員の報告内容が共有される機会となっており、論文指導もこの定期開催の中間報告会をひとつの目安として位置づけている。各学年の学生は、この 4 回のステップが存在することで、それぞれに研究進捗のステージを上げるよう努めるなど、自主的な学習を促進させる効果をもっている。
その他、上記項目以外でインスティテュートとして「特色」として挙げられるもの、または「課題」として今後改善に取り組んでいきたいものがありましたら記入してください。
<b>特色</b>
・学習の継続に困難を抱える学生（留年者、退学希望者等）への対応 平日夜間および土曜に主たる授業科目を編成する社会人大学院としてのカリキュラム上の特色をもっている。これまで、学生の現職における転勤等の理由（キャリアアップとなる海外駐在）により 1 名のみ 2 年間での卒業が困難になった例（帰国後復学を経て卒業）を除き、ほぼ全学生が働きながら 2 年間で修士の学位を取得できている。
<b>課題</b>
・外国人留学生の修学支援 連帯社会インスティテュートでは外国人留学生の進学者は極めて少なく、修学支援も個別対応で足る範囲であった。将来的な外国人留学生の進学者増加も想定し、今後は、制度的拡充について議論・検討しておくよう努めたい。

### III 2022 年度中期目標・年度目標達成状況報告書

評価基準	教育課程・学習成果【教育課程・教育内容に関すること】
中期目標	<p>○授業科目</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・3プログラム（NPO、労働組合、協同組合）制に基づく、基礎科目、専門科目、選択必修科目の区分を含む、カリキュラム体系、各科目の配置、シラバスの記載項目などについて、自己点検フォーマットを作成、自己点検を行い、必要に応じて見直しを行う。</li> <li>・科目等履修生から意見や希望を聴取し、正規の院生として入学する割合を高めるとともに、入学後にメリットがでるように検討する。</li> </ul> <p>○修士論文</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・社会人大学院という性格を踏まえ、修士論文に加えて、リサーチペーパーを認めるかどうか、検討を行い、必要と判断されれば、導入する。</li> <li>・3プログラム（NPO、労働組合、協同組合）制に基づく各プログラム担当教員とプログラム構成院生によるゼミ（特論演習 I、II、および論文指導 I、II）、研究報告（M1、M2 とも年 2 回）と個別指導の 3 種類の論文指導について、2021 年度に決定した自己点検フォーマット案を試行し、フォーマットを確定させる。</li> </ul>
年度目標	<p>○授業科目</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・3プログラム（NPO、労働組合、協同組合）の担当教員 3 名（以下、プログラム担当教員）は、基礎科目、専門科目、選択必修科目の区分を含む、カリキュラム体系、各科目の配置、シラバスの記載項目などについて 2021 年度に自己点検を行った結果を踏まえ、毎年見直しを行うためのフォーマット案を作成する。</li> <li>・科目等履修生に関して、履修生から意見や希望を聴取する時期や方法について、教務委員を中心に決定する。</li> </ul> <p>○修士論文</p>

※ 回答欄「はい・いいえ」は法令要件やその他の基礎的な要件の充足を点検している。

	<ul style="list-style-type: none"> <li>・社会人大学院という性格を踏まえ、教務委員を中心に、修士論文に加え、リサーチペーパーを認めるかどうか検討するため、他研究科などの実態を把握した資料を作成する。</li> <li>・プログラム担当教員は、プログラム構成院生によるゼミ（特論演習Ⅰ、Ⅱ、および論文指導Ⅰ、Ⅱ）、研究報告（M1、M2とも年2回）と個別指導の3種類の論文指導について、フォーマット案を用いた自己点検を行い、検討する。</li> </ul>	
達成指標	<p>○授業科目</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・3プログラム制に基づく、基礎科目、専門科目、選択必修科目の区分を含む、カリキュラム体系、各科目の配置、シラバスの記載項目などに基づき、各プログラム担当教員による自己点検のフォーマットが作成されること。</li> <li>・科目等履修生に関して、履修生から意見や希望を聴取する時期や方法について検討する教務委員会を開催し、それらが決定、実施の体制が整備されること。</li> </ul> <p>○修士論文</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・修士論文に加えて、リサーチペーパーを認めるかどうか、検討するため、他研究科の実態などを把握し、メリット・デメリットが整理された資料が作成されること。</li> <li>・3プログラム制に基づく各プログラム担当教員は、ゼミ（特論演習Ⅰ、Ⅱ、および論文指導Ⅰ、Ⅱ）、研究報告（M1、M2とも年2回）と個別指導の3種類の論文指導について、自己点検フォーマットが作成されること。</li> </ul>	
年度末報告	教授会執行部による点検・評価	
	自己評価	A
	理由	<p>○授業科目</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・基礎科目、専門科目、選択必修科目の区分を含む、カリキュラム体系、各科目の配置、シラバスの記載項目などについて2021年度に自己点検を行った結果を踏まえ、毎年見直しを行うためのフォーマット案を作成した。次年度移行フォーマットを活用できるよう準備を進めている。</li> <li>・科目等履修生に対して、インスティテュート独自のアンケートの対象にし、意見や希望の聴取を実施した。</li> </ul> <p>○修士論文</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・社会人大学院という性格を踏まえ、教務委員を中心に、修士論文に加え、リサーチペーパーを認めるかどうか検討する資料を収集し、次年度以降の検討に備えている。</li> <li>・プログラム担当教員は、プログラム構成院生によるゼミ（特論演習Ⅰ、Ⅱ、および論文指導Ⅰ、Ⅱ）、研究報告（M1、M2とも年2回）と個別指導の3種類の論文指導について、フォーマット（案）を作成した。次年度以降、公式フォーマットに向けてこれを試行する。</li> </ul>
	改善策	－
評価基準	教育課程・学習成果【教育方法に関すること】	
中期目標	<p>○授業科目</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・引き続き教育方法については学習効果を上げるためのFDなどの取り組みについて検討していく。</li> <li>・非常勤の教員については、教育方法について把握できていないので、把握、検討していく必要があるかどうか、引き続き議論し、必要に応じた措置をとる。</li> </ul> <p>○修士論文</p>	

※ 回答欄「はい・いいえ」は法令要件やその他の基礎的な要件の充足を点検している。

	<ul style="list-style-type: none"> <li>・研究報告（M1、M2 とも年 2 回）の実施回数や方法、論文研究指導の実施方法、論文の審査体制と評価方法などについて、自己点検を行うとともに、他大学院や他法政大学の他研究科の方法なども調査し、必要な見直しを行う。</li> </ul>	
年度目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>○授業科目 <ul style="list-style-type: none"> <li>・教育方法については、学習効果を上げるための FD などの取り組みについて、他の研究科や大学の授業の方法を調査、整理すること。</li> <li>・非常勤の教員については、教育方法について把握、検討していく具体的な方法を議論し、決定すること。</li> </ul> </li> <li>○修士論文 <ul style="list-style-type: none"> <li>・研究報告（M1、M2 とも年 2 回）の実施回数や方法、論文研究指導の実施方法、論文の審査体制と評価方法などについて、改めて改善の余地を確認・検討する。</li> </ul> </li> </ul>	
達成指標	<ul style="list-style-type: none"> <li>○授業科目 <ul style="list-style-type: none"> <li>・教育方法については、学習効果を上げるための FD 実施に関して、他研究科や大学の授業方法を調査、整理されること。</li> <li>・非常勤の教員については、教育方法について把握するための具体的な方法について決定されること。</li> </ul> </li> <li>○修士論文 <ul style="list-style-type: none"> <li>・研究報告（M1、M2 とも年 2 回）の実施回数や方法、論文研究指導の実施方法、論文の審査体制と評価方法などについて、それぞれ維持か変更かを判断し、変更の場合、新たな方法が決定されること。</li> </ul> </li> </ul>	
年度末報告	教授会執行部による点検・評価	
	自己評価	A
	理由	<ul style="list-style-type: none"> <li>○授業科目 <ul style="list-style-type: none"> <li>・教育方法について、学習効果を上げるための FD などの取り組みについて、代表者が大学全体の FD 研修等に積極的に参加するとともに、学外の関連情報の収集・分析を進めている。</li> <li>・非常勤の教員について、教育方法について把握、検討していく具体的な方法として、アンケートの実施による情報収集を行うこととなった。</li> </ul> </li> <li>○修士論文 <ul style="list-style-type: none"> <li>・研究報告（M1、M2 とも年 2 回）の実施回数や方法、論文研究指導の実施方法、論文の審査体制と評価方法などについて、現状の回数・方法の適切性が確認された。</li> </ul> </li> </ul>
	改善策	—
評価基準	教育課程・学習成果【学習成果に関すること】	
中期目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>○授業科目 <ul style="list-style-type: none"> <li>・前期の検討を通し、個々の教員が担当している科目については、シラバスにおける到達目標の基準策定が必要と判断された。具体的な検討を経て、到達目標導入に向けた努力を図る。</li> <li>・オムニバスの授業（連帯社会とサードセクター）についても、同様の措置を進め、シラバスの「成績評価の方法と基準」について、見直しを行い、必要な場合は修正を行う。</li> <li>・個々の教員の担当科目、オムニバス授業とともに、院生の単位取得割合を学期後に確認し、割合向上策の策定を進める。</li> </ul> </li> <li>○修士論文 <ul style="list-style-type: none"> <li>・研究報告について、出席と報告の確認だけではなく、報告内容のレベル基準や指標、その後に改善がなされた程度などについて判断するフォーマット案の策定を試み、論文のレベルアップをはかる。</li> </ul> </li> </ul>	

※ 回答欄「はい・いいえ」は法令要件やその他の基礎的な要件の充足を点検している。

	<ul style="list-style-type: none"> <li>論文については、提出時の評価だけではなく、2年間の進歩についても判断するプロセス評価のフォーマット案を策定し、導入に務める。</li> </ul>
年度目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>○授業科目 <ul style="list-style-type: none"> <li>個々の教員が担当している科目については、シラバスの「到達目標」を把握する基準案策定に向けた試行を進める。</li> <li>オムニバス授業（連帯社会とサードセクター）についても、同様の措置を進める。また、シラバスの「成績評価の方法と基準」について、見直しを行い、必要な場合は修正を行う。</li> <li>個々の教員の担当科目、オムニバス授業ともに、履修した院生が単位を取得した割合を把握し、割合を高める措置の具体的なプラン案を策定する。</li> </ul> </li> <li>○修士論文 <ul style="list-style-type: none"> <li>研究報告について、出席と報告の確認だけではなく、報告内容のレベル基準や指標、その後に改善がなされた程度などについて判断するフォーマット案の策定・実施に関わる指導体制を決定する。</li> <li>論文については、提出時の評価だけではなく、2年間の進歩についても判断するプロセス評価の手法を検討し、導入に向けた行程表を決定する。</li> </ul> </li> </ul>
達成指標	<ul style="list-style-type: none"> <li>○授業科目 <ul style="list-style-type: none"> <li>個々の教員が担当している科目については、シラバスの「到達目標」を把握する基準の必要性が検討され、必要な場合は、導入に向けた行程表が決定されること。</li> <li>オムニバス授業（連帯社会とサードセクター）についても、同様の措置を検討するとともに、シラバスの「成績評価の方法と基準」について、見直しを行い、必要な場合は修正が行われること。</li> <li>個々の教員の担当科目、オムニバス授業ともに、履修した院生が単位を取得した割合を把握し、割合を高める措置を検討、次年度以降の導入に向けた道筋が決定されること。</li> </ul> </li> <li>○修士論文 <ul style="list-style-type: none"> <li>研究報告について、報告内容のレベル基準や指標、その後に改善がなされた程度などについてフォーマット案の策定が行われること。</li> <li>論文については、提出時の評価だけではなく、2年間の進歩についても判断するプロセス評価の手法を検討し、導入に向けた試行を前進させること。</li> </ul> </li> </ul>
年度末報告	教授会執行部による点検・評価
	自己評価 A
	理由 <ul style="list-style-type: none"> <li>○授業科目 <ul style="list-style-type: none"> <li>個々の教員が担当している科目について、シラバスの「到達目標」を把握する基準案策定に向けた試行を進めた。</li> <li>オムニバス授業（連帯社会とサードセクター）についても、同様の措置を進める。また、シラバスの「成績評価の方法と基準」について、検討した。</li> <li>個々の教員の担当科目、オムニバス授業ともに、履修した院生が単位を取得した割合を把握した結果、いずれもすべての履修者が単位を取得したことが確認された。</li> </ul> </li> <li>○修士論文 <ul style="list-style-type: none"> <li>研究報告について、出席と報告の確認に加え、報告内容のレベル等について各教員が評価・コメントを行い、次回の報告会に向けた改善の方向性が示された。</li> </ul> </li> </ul>

※ 回答欄「はい・いいえ」は法令要件やその他の基礎的な要件の充足を点検している。

		<ul style="list-style-type: none"> <li>論文については、提出時の評価に加え、2年間の進歩についても判断できるプロセス評価の手法として、次年度以降学生自身が4回ある中間報告時の評価・コメントを一覧できるシートの作成を検討している。</li> </ul>
	改善策	—
	評価基準	学生の受け入れ
	中期目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>○入試広報 <ul style="list-style-type: none"> <li>推薦入試については、院生を推薦した団体の修了後の満足度の把握から改善までのサイクル整備を試行する。</li> <li>一般入試については、全学の説明会に加えて、インスティテュート独自の説明会などを実施する。また、ウェブサイトの充実や広報マテリアル（パンフなど）のさらなる活用・普及策を検討し、予算措置を含め、必要な手段を実施する。</li> </ul> </li> <li>○その他 <ul style="list-style-type: none"> <li>入学者の質的水準の確保に向け、選抜における口頭試問の評価基準案を作成し、実施に向けた整備を図る。</li> <li>留学生の受け入れ拡大に向けた対策として英文パンフの活用を中心に、可能な措置を導入する。</li> <li>社会人大学院では、OB/OGの推薦が学生募集に大きな影響を与える。このため、OB/OGによる同窓会組織と協力し、潜在的受験生の掘り起こしなど、可能な措置を導入する。</li> </ul> </li> </ul>
	年度目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>○入試広報 <ul style="list-style-type: none"> <li>推薦入試については、連帯社会研究交流センターを通じて、修了後一定期間をへてから修了生および推薦団体に満足度を確認を依頼する。</li> <li>一般入試については、NPOプログラムを中心に広報案を作成する。また、協同組合プログラムの広報の課題の抽出と実施方法を検討する。インスティテュート独自の説明会や、ウェブサイトの充実や広報マテリアル（パンフなど）の改訂や配布について、予算措置を含め検討する。</li> </ul> </li> <li>○その他 <ul style="list-style-type: none"> <li>入学者の質的水準の確保に向けた口述試験の評価基準について、2020年度に議論された研究能力、共同で研究するうえでの求められる資質（柔軟性・協調性など）とともに、研究環境の整備の必要性などをベースに、基準の具体化を図る。</li> <li>留学生の受け入れ拡大に向けて、既存の英文のパンフの活用をはかる具体的方法を決定する。</li> <li>2020年度にOB/OGと在校生とのつながりを作ることにについては、入学式、修了式後などに同窓会組織の協力を得て交流の機会の設定していくことになったことを踏まえ、その場に潜在的な受験生も参加できる方途を探る。</li> </ul> </li> </ul>
	達成指標	<ul style="list-style-type: none"> <li>○入試広報 <ul style="list-style-type: none"> <li>推薦入試については、修了生および院生を推薦した団体の修了後の満足度を把握し、その回答が整理されること。</li> <li>一般入試については、NPOプログラムを中心に広報案が作成されること。協同組合プログラムの広報課題の抽出し、課題に対応した広報手段が決定されること。</li> <li>インスティテュート独自の説明会や、ウェブサイトの充実や広報マテリアル（パンフなど）の作成と配布について検討結果が出され、次年度以降に具体化されるメドがつけられること。</li> </ul> </li> <li>○その他</li> </ul>

※ 回答欄「はい・いいえ」は法令要件やその他の基礎的な要件の充足を点検している。

		<ul style="list-style-type: none"> <li>・入学者の質的水準の確保に向け、選抜における口頭試問の評価基準案が作成されること。</li> <li>・留学生の受け入れ拡大に向けて、既存の英文のパンフの活用をはかる方法が決定されること。</li> <li>・OB/OGと在校生とのつながりを作ることについては、入学式、修了式後などに交流の機会の設定していくことになったことを踏まえ、その場に潜在的な受験生の参加のあり方について決定されること。</li> </ul>
年度末報告	教授会執行部による点検・評価	
	自己評価	A
	理由	<p>○入試広報</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・推薦入試については、連帯社会研究交流センターを通じて、修了後一定期間をへてから修了生および推薦団体に満足度を確認し、冊子にまとめた（『連合大学院6年間の総括』）。</li> <li>・一般入試については、NPOプログラムを中心に広報案検討している。また、協同組合プログラムについては、首都圏の主だった生協組織3団体・連合会を訪問し、個別に教育内容や進学制度等の説明を行った。</li> </ul> <p>○その他</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・入学者の質的水準の確保に向けた口述試験の評価基準について、2020年度に議論された研究能力、共同で研究するうえでの求められる資質（柔軟性・協調性など）とともに、研究環境の整備の必要性などをベースとして具体的な基準の策定を準備している。</li> <li>・留学生の受け入れ拡大に向けて、既存の英文パンフの活用を進めている。</li> <li>・OB/OGと在校生とのつながりづくりを促進する一環として、修士論文報告会等の案内やゲストとして授業に招くなど、複数の措置を講じており、適宜意見交換を行うことで、潜在的な受験生の発掘に努めている。</li> </ul>
	改善策	－
	評価基準	教員・教員組織
	中期目標	<p>○非常勤の教員の考えのインプット</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・専任教員が3名と少ないため、授業において、非常勤の教員への依存度は小さくない。非常勤の教員は、インスティテュートの院生の養成目的を達成するために重要な位置を占めているという認識に立ち、前期に引き続き非常勤の教員の考えをインプットする仕組み（意見交換会など）を検討し、必要な措置を導入する。</li> </ul>
	年度目標	<p>○非常勤の教員の考えのインプット</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・2020年度にプログラム担当教員の会議を開催し、非常勤の教員の考えを受ける方法について検討し、各プログラム教員がインプットを受けることが確認されたことを受け、教務委員会でインプットを受ける方法を決める。その方法に基づき、各教員は、非常勤の教員からインプットを受け、教務委員会と運営委員会で共有し、次年度以降に具体策を導入するメドをつける。</li> </ul>
	達成指標	<p>○非常勤の教員の考えのインプット</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・教務委員会でインプットを受ける方法が決定され、その方法に基づき、非常勤の教員からインプットを受け、教務委員会と運営委員会で共有され、次年度以降に具体策を導入するメドがつけられること。</li> </ul>
年度	教授会執行部による点検・評価	
	自己評価	A

※ 回答欄「はい・いいえ」は法令要件やその他の基礎的な要件の充足を点検している。

末 報 告	理由	○非常勤の教員の考えのインプット ・2022年度より一部科目再編を行ったこともあり、非常勤講師との意見交換の機会を増加につながった。特に2単位科目から1単位科目に変更になったことで、学生意見も反映しながら、シラバスや内容等の改訂を進められた。
	改善策	－
評価基準		学生支援
中期目標		○授業・論文指導 ・授業については、オフィスアワーの周知と活用促進策をはじめとした授業支援システムの改善策を検討し、必要な措置を導入する。論文指導に関しては、主指導ひとりの体制だが、複数の教員による指導の可能性を検討し、必要と判断された場合、その方法について検討、実施する。 ○その他 ・学習支援に関連して、院生のニーズ把握を行い、ニーズが高いものについて、導入の可能性を検討し、可能な場合は、導入する。 ・院生間のコミュニケーションや連携の促進や共通のニーズの把握などのため、学生とともに、学生支援などに関する話し合いの場を設け、恒常化することを検討、必要な場合、院生会等を設ける。
年度目標		○授業・論文指導 ・授業に関する内容のうち、オフィスアワーの周知と活用促進策をはじめとした授業支援システムに対する各教員の取組を共通化できる措置を図れるか検討する。 ・論文指導に関しては、院生にニーズ把握を行う以前に複数の教員による指導体制の確立を模索するとともに、2021年度に実施した副査への事前の草稿のチェックの効果について、その結果を検討し、改善策を検討する。 ○その他 ・学習支援に関連して、院生のニーズ把握を行うための方法を決定、実施、ニーズ内容を整理すること。 ・院生間のコミュニケーションや連携の促進や共通のニーズの把握を行うための方法を、教務委員が中心になって具体策を検討する。
達成指標		○授業・論文指導 ・授業について、オフィスアワーの活用策について議論され、一定の結論がえられること。 ・論文指導に関しては、副査へ聞き取りなどを通じて、事前の草稿チェックの効果と課題が抽出され、改善策が提示されること。 ○その他 ・学習支援に関連して、教務委員を中心に院生のニーズ把握を行う必要性や方法を検討し、結論をえることで、次年度以降の支援策が改善される道筋がつけられること。 ・院生間のコミュニケーションや連携の促進や共通のニーズの把握を行うための方法を教務委員を中心に検討、具体的な方法が決定されること。
年 度 末	教授会執行部による点検・評価	
	自己評価	A
	理由	○授業・論文指導

※ 回答欄「はい・いいえ」は法令要件やその他の基礎的な要件の充足を点検している。

報告		<ul style="list-style-type: none"> <li>・ Hoppii やシラバスへの記載を含め、オフィスアワーを周知している。また、インスティテュート独自の授業アンケートを用い、三教員の授業進行等について相互に情報共有することができている。</li> <li>・ 論文指導に関しては、半期毎の報告会を用いて共同指導体制を確立させている。副査への事前の草稿のチェックを制度的に確立できるよう議論を進めている。</li> <li>○その他 <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 学習支援に関連した院生のニーズ把握として、各指導教員より情報共有を進めることで新しい事態に対応できるよう準備している。</li> <li>・ 院生間のコミュニケーションや連携の促進や共通のニーズの把握のための機会を作るよう定期的にプログラム横断的な場を設けるよう心がけた。</li> </ul> </li> </ul>
	改善策	－
評価基準		社会連携・社会貢献
中期目標		<ul style="list-style-type: none"> <li>○連帯社会の構築を担う実務家を育成することを通じて、社会に貢献し、社会と連携するという本インスティテュートの設立目的を持続的に果たす。</li> <li>○専任教員が連帯社会を構成する労働組合、協同組合、NPO の研究を進め、研究成果を積極的に外部に発信することによって社会に貢献し、社会と連携することを目指す。</li> </ul>
年度目標		<ul style="list-style-type: none"> <li>○修了生の割合の高率維持 <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 連帯社会の構築を担う実務家を育成するという設立目的を持続的に果たすため、各教員は、入学者の卒業割合を高く維持するよう努める。</li> </ul> </li> <li>○研究成果の発信 <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 専任教員が連帯社会を構成する労働組合、協同組合、NPO の研究を進め、研究成果をより積極的に外部に発信する方法について検討する。</li> </ul> </li> </ul>
達成指標		<ul style="list-style-type: none"> <li>○修了生の割合の高率維持 <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 連帯社会の構築を担う実務家を育成するという設立目的を持続的に果たすため、入学者の卒業割合を 80% 以上に維持されること。</li> </ul> </li> <li>○研究成果の発信 <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 専任教員は、著書・論文・学会発表・講演などの形で複数回、研究成果を外部に発信すること。この研究成果が大学の業績開示のサイトにアップされていること。</li> </ul> </li> </ul>
年度末報告	教授会執行部による点検・評価	
	自己評価	A
	理由	<ul style="list-style-type: none"> <li>○修了生の割合の高率維持 <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 入学者すべてが卒業を予定しており、連帯社会の構築を担う実務家を育成するという設立目的を持続的に果たしている。</li> </ul> </li> <li>○研究成果の発信 <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 専任教員が連帯社会を構成する労働組合、協同組合、NPO の研究を進めており、定期的に研究者以外にも目を通す媒体への寄稿・刊行や一般向け講演会なども実施している。</li> </ul> </li> </ul>
	改善策	－
<p>【重点目標】</p> <p>3 プログラム制に基づく各プログラム担当教員は、ゼミ（特論演習Ⅰ、Ⅱ、および論文指導Ⅰ、Ⅱ）、研究報告（M1、M2 とも年 2 回）と個別指導の 3 種類の論文指導について、自己点検フォーマットが作成されること。</p> <p>【目標を達成するための施策等】</p>		

※ 回答欄「はい・いいえ」は法令要件やその他の基礎的な要件の充足を点検している。

目標達成のため、前年度作成したフォーマット案を運営委員会等、教員間で協議する時間を設けることで再度の検討を進め、自己点検フォーマットを完成させる。

【年度目標達成状況総括】

2022年度目標については、おおむね達成できたと考えている。一方で、本インスティテュートは2015年度に開設された新しい大学院でもあり、この7年間の学生受入を通して新しい課題や改善点、改善目標なども検討している。学生数が小規模であることも幸いしてインスティテュート独自で行う学生アンケートにはほぼ全員が記述式で回答し、学生ニーズも日々可視化できている。進学を希望する学生が持続的に集まり、また修了後の満足や達成感、獲得した知識や技能の職場やこれからのライフステージでの活用など、よりよい教育内容になるよう次年度以降も引き続き改善を進めていきたい。

#### IV 2023年度中期目標・年度目標

評価基準	教育課程・学習成果【教育課程・教育内容に関すること】
中期目標	<p>○授業科目</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・3プログラム（NPO、労働組合、協同組合）制に基づく、基礎科目、専門科目、選択必修科目の区分を含む、カリキュラム体系、各科目の配置、シラバスの記載項目などについて、自己点検フォーマットを作成、自己点検を行い、必要に応じて見直しを行う。</li> <li>・科目等履修生から意見や希望を聴取し、正規の院生として入学する割合を高めるとともに、入学後にメリットがでるように検討する。</li> </ul> <p>○修士論文</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・社会人大学院という性格を踏まえ、修士論文に加えて、リサーチペーパーを認めるかどうか、検討を行い、必要と判断されれば、導入する。</li> <li>・3プログラム（NPO、労働組合、協同組合）制に基づく各プログラム担当教員とプログラム構成院生によるゼミ（特論演習Ⅰ、Ⅱ、および論文指導Ⅰ、Ⅱ）、研究報告（M1、M2とも年2回）と個別指導の3種類の論文指導について、2021年度に決定した自己点検フォーマット案を試行し、フォーマットを確定させる。</li> </ul>
年度目標	<p>○授業科目</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・3プログラム（NPO、労働組合、協同組合）の担当教員3名（以下、プログラム担当教員）は、基礎科目、専門科目、選択必修科目の区分を含む、カリキュラム体系、各科目の配置、シラバスの記載項目などについて2022年度に作成したフォーマット案を用いて、各年度の見直しを十分に行えるものか試行・検証する。</li> <li>・科目等履修生に関して、すでに実施している授業アンケート以外にも履修生から意見や希望を聴取する方法がないか、またその時期等についても、教務委員を中心に検討する。</li> </ul> <p>○修士論文</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・社会人大学院という性格を踏まえ、教務委員を中心に、修士論文に加え、リサーチペーパーを認めるかどうか検討するため、本学他研究科の実態把握をさらに進め、必要に応じて他大学院についても情報収集を行う。</li> <li>・プログラム担当教員は、プログラム構成院生によるゼミ（特論演習Ⅰ、Ⅱ、および論文指導Ⅰ、Ⅱ）、研究報告（M1、M2とも年2回）と個別指導の3種類の論文指導について、昨年度作成したフォーマット案を具体的に試行させ検証する。</li> </ul>
達成指標	<p>○授業科目</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・3プログラム制に基づく、基礎科目、専門科目、選択必修科目の区分を含む、カリキュラム体系、各科目の配置、シラバスの記載項目などに基</li> </ul>

※ 回答欄「はい・いいえ」は法令要件やその他の基礎的な要件の充足を点検している。

	<p>づき作成した各プログラム担当教員による自己点検フォーマット案を用いて試行・検証を行うこと。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・科目等履修生に関して、履修生から意見や希望を聴取する時期や方法について検討する教務委員会を開催し、独自実施の授業アンケート以外の方法や時期について検討が行われること。</li> </ul> <p>○修士論文</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・修士論文に加えて、リサーチペーパーを認めるかどうか、検討するため、本学他大学院等の事例を収集した資料を整理すること。</li> <li>・3プログラム制に基づく各プログラム担当教員が、ゼミ（特論演習Ⅰ、Ⅱ、および論文指導Ⅰ、Ⅱ）、研究報告（M1、M2とも年2回）と個別指導の3種類の論文指導について、自己点検フォーマット案を具体的に試行・検証すること。</li> </ul>
評価基準	教育課程・学習成果【教育方法に関すること】
中期目標	<p>○授業科目</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・引き続き教育方法については学習効果を上げるためのFDなどの取り組みについて検討していく。</li> <li>・非常勤の教員については、教育方法について把握できていないので、把握、検討していく必要があるかどうか、引き続き議論し、必要に応じた措置をとる。</li> </ul> <p>○修士論文</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・研究報告（M1、M2とも年2回）の実施回数や方法、論文研究指導の実施方法、論文の審査体制と評価方法などについて、自己点検を行うとともに、他大学院や他法政大学の他研究科の方法なども調査し、必要な見直しを行う。</li> </ul>
年度目標	<p>○授業科目</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・教育方法については、学習効果を上げるためのFDなどの取り組みについて、本学他研究科及び必要に応じて他大学の社会人大学院における情報を収集・整理する。</li> <li>・非常勤の教員については、教育方法について把握、検討していくため、アンケートを実施等意見聴取を試行する。</li> </ul> <p>○修士論文</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・研究報告（M1、M2とも年2回）の実施回数や方法、論文研究指導の実施方法、論文の審査体制と評価方法などについて、改善の余地がないか各プログラム担当教員間で検討の場をもつ。</li> </ul>
達成指標	<p>○授業科目</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・教育方法については、学習効果を上げるためのFD実施に関して、収集された本学他研究科等の情報を教員間で共有する。</li> <li>・非常勤の教員の教育方法についてアンケート等により意見聴取を実施する。</li> </ul> <p>○修士論文</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・研究報告（M1、M2とも年2回）の実施回数や方法、論文研究指導の実施方法、論文の審査体制と評価方法などについて、それぞれ維持か変更か、改善の余地について判断する。</li> </ul>
評価基準	教育課程・学習成果【学習成果に関すること】
中期目標	<p>○授業科目</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・前期の検討を通し、個々の教員が担当している科目については、シラバスにおける到達目標の基準策定が必要と判断された。具体的な検討を経て、到達目標導入に向けた努力を図る。</li> </ul>

※ 回答欄「はい・いいえ」は法令要件やその他の基礎的な要件の充足を点検している。

	<ul style="list-style-type: none"> <li>・オムニバスの授業（連帯社会とサードセクター）についても、同様の措置を進め、シラバスの「成績評価の方法と基準」について、見直しを行い、必要な場合は修正を行う。</li> <li>・個々の教員の担当科目、オムニバス授業ともに、院生の単位取得割合を学期後に確認し、割合向上策の策定を進める。</li> </ul> <p>○修士論文</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・研究報告について、出席と報告の確認だけではなく、報告内容のレベル基準や指標、その後に改善がなされた程度などについて判断するフォーマット案の策定を試み、論文のレベルアップをはかる。</li> <li>・論文については、提出時の評価だけではなく、2年間の進歩についても判断するプロセス評価のフォーマット案を策定し、導入に務める。</li> </ul>
年度目標	<p>○授業科目</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・個々の教員が担当している科目については、シラバスの「到達目標」に対しカリキュラムとの整合性の観点から基準案策定に向けた検討を進める。</li> <li>・オムニバス授業（連帯社会とサードセクター）についても、各担当科目同様にカリキュラムとの整合性の観点から検討を進める。また、シラバスの「成績評価の方法と基準」について、科目構成教員間で合意形成の場をもつ。</li> <li>・個々の教員の担当科目、オムニバス授業ともに、履修した院生が単位を取得した割合を把握し、向上させるための具体的なプラン案を策定する。</li> </ul> <p>○修士論文</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・研究報告について、出席と報告の確認だけではなく、報告内容のレベル基準や指標、その後に改善がなされた程度などについて教員間で意見交換の場をもち、改善のPDCAサイクルを回せるようにする。</li> <li>・論文については、提出時の評価だけではなく、各学生が2年間でどのように成長したのか、プロセス評価を可能とする手法を検討し、導入計画策定に結びつける。</li> </ul>
達成指標	<p>○授業科目</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・個々の教員が担当している科目とカリキュラムとの整合性について、教員間での議論の場をもつこと。</li> <li>・オムニバス授業（連帯社会とサードセクター）についても、同様の措置を検討するとともに、シラバスの「成績評価の方法と基準」について、科目構成教員の間で合意形成の場をもつこと。</li> <li>・個々の教員の担当科目、オムニバス授業ともに、履修した院生が単位を取得した割合を把握し、向上を図る措置について検討した上で、次年度以降の導入に向けた道筋が決定されること。</li> </ul> <p>○修士論文</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・研究報告について、報告内容のレベル基準や指標、その後に改善がなされた程度などについて意見交換の場を定期的にもてる工程計画を検討すること。</li> <li>・論文については、提出時の評価だけではなく、2年間の成長を判断するプロセス評価の手法と導入計画案を検討すること。</li> </ul>
評価基準	学生の受け入れ
中期目標	<p>○入試広報</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・推薦入試については、院生を推薦した団体の修了後の満足度の把握から改善までのサイクル整備を試行する。</li> </ul>

※ 回答欄「はい・いいえ」は法令要件やその他の基礎的な要件の充足を点検している。

	<ul style="list-style-type: none"> <li>・一般入試については、全学の説明会に加えて、インスティテュート独自の説明会などを実施する。また、ウェブサイトの充実や広報マテリアル（パンフなど）のさらなる活用・普及策を検討し、予算措置を含め、必要な手段を実施する。</li> </ul> <p>○その他</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・入学者の質的水準の確保に向け、選抜における口頭試問の評価基準案を作成し、実施に向けた整備を図る。</li> <li>・留学生の受け入れ拡大に向けた対策として英文パンフの活用を中心に、可能な措置を導入する。</li> <li>・社会人大学院では、OB/OGの推薦が学生募集に大きな影響を与える。このため、OB/OGによる同窓会組織と協力し、潜在的受験生の掘り起こしなど、可能な措置を導入する。</li> </ul>
年度目標	<p>○入試広報</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・推薦入試については、社会人学生の推薦団体を対象とした説明会・相談会の実施と既卒者および所属団体に対する就学時の満足度等についての意見を聴取する。</li> <li>・一般入試については、NPOプログラムを中心に他大学院との差別化を図れる広報案を検討する。インスティテュート独自のウェブサイトの充実や広報マテリアル（パンフなど）の改訂や配布について、予算措置を含め検討する。</li> </ul> <p>○その他</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・入学者の質的水準の確保に向けた口述試験の評価基準について、受験時の論文・計画書や学生のポテンシャルを査定できる相対評価指標案を検討する。</li> <li>・留学生を受け入れる環境として十分であるのかを検討する機会を設け、改善策を検討する。</li> <li>・OB/OGと在校生がつながる機会を各年度計画できるように検討するとともに、推薦団体等での広報のあり方について現状を確認し、潜在的受験生の掘り起こしの余地について議論する。</li> </ul>
達成指標	<p>○入試広報</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・推薦入試については、修了生および院生を推薦した団体との交流を深め、既卒者との対話の機会を設ける。</li> <li>・一般入試については、NPOプログラムを中心に本インスティテュートの特色を具体的に集約すること。</li> <li>・インスティテュート独自のウェブサイト活用、および、広報マテリアル（パンフなど）の作成にかかる予算等について具体的な計画案を検討すること。</li> </ul> <p>○その他</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・入学者の質的水準の確保に向け、選抜における口頭試問の相対評価での基準案が作成されること。</li> <li>・留学生の学習環境として追加的に必要とされる措置等について議論し、具体的な改善策を検討する。</li> <li>・OB/OGと在校生とがつながれる機会を定期的に設けられるよう、既卒者への連絡システムの整備を図る会議を開催する。推薦団体にコンタクトをとり、団体内での広報のあり方について確認する。</li> </ul>
評価基準	教員・教員組織
中期目標	<p>○非常勤の教員の考えのインプット</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・専任教員が3名と少ないため、授業において、非常勤の教員への依存度は小さくない。非常勤の教員は、インスティテュートの院生の養成目的</li> </ul>

※ 回答欄「はい・いいえ」は法令要件やその他の基礎的な要件の充足を点検している。

	を達成するために重要な位置を占めているという認識に立ち、前期に引き続き非常勤の教員の考えをインプットする仕組み（意見交換会など）を検討し、必要な措置を導入する。
年度目標	○非常勤の教員の考えのインプット ・各プログラム担当教員が窓口となる非常勤教員との間での意見交換を行うとともに、改善点や要望などを集約し、教務委員会での議論を通して共有を図る。各教員は、この議論を経て非常勤教員に次年度以降の方向性を伝えるとともに、翌年度以降、このプロセスのシステム化に向けた試行を進める。
達成指標	○非常勤の教員の考えのインプット ・非常勤教員と窓口教員との意見交換を経て、教務委員会で意見の集約と方針案の確定に向けた議論を進め、次年度以降に制度化へのメドをつけること。
評価基準	学生支援
中期目標	○授業・論文指導 ・授業については、オフィスアワーの周知と活用促進策をはじめとした授業支援システムの改善策を検討し、必要な措置を導入する。論文指導に関しては、主指導ひとりの体制だが、複数の教員による指導の可能性を検討し、必要と判断された場合、その方法について検討、実施する。 ○その他 ・学習支援に関連して、院生のニーズ把握を行い、ニーズが高いものについて、導入の可能性を検討し、可能な場合は、導入する。 ・院生間のコミュニケーションや連携の促進や共通のニーズの把握などのため、学生とともに、学生支援などに関する話し合いの場を設け、恒常化することを検討、必要な場合、院生会等を設ける。
年度目標	○授業・論文指導 ・授業について、オフィスアワーの周知とともに、夜間中心の大学院であるという特殊性を前提とした活用促進策について検討を進める。 ・論文指導に関しては、主指導教員による柔軟な指導の展開とともに、他教員や副査の教員からのコメントを得られる機会を制度的に充当できるよう検討を進める。 ○その他 ・学習支援に関連して、具体的な院生のニーズを集約し、改善策を検討する。 ・院生間のコミュニケーションや連携促進、共通ニーズの把握を行うため、IT活用の余地を検討する。
達成指標	○授業・論文指導 ・授業について、夜間中心の大学院であるという特殊性を加味したオフィスアワーの活用策について教務委員会で議論され、一定の結論が得られること。 ・論文指導に関しては、教員間で指導経過を共有する機会を設け、第三者的なコメントを与えられる環境構築に結び付けられるよう試行を進める。 ○その他 ・学習支援に関連して、既卒者を中心に過去の院生から示されたニーズを教務委員会にて整理・検討し、次年度以降の改善策について一定の結論を出す。 ・院生間のコミュニケーションや連携促進、共通ニーズの把握を行う上で有効性の高いIT活用のための道筋をつける。

※ 回答欄「はい・いいえ」は法令要件やその他の基礎的な要件の充足を点検している。

評価基準	社会貢献・社会連携
中期目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>○連帯社会の構築を担う実務家を育成することを通じて、社会に貢献し、社会と連携するという本インスティテュートの設立目的を持続的に果たす。</li> <li>○専任教員が連帯社会を構成する労働組合、協同組合、NPOの研究を進め、研究成果を積極的に外部に発信することによって社会に貢献し、社会と連携することを目指す。</li> </ul>
年度目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>○修了生の割合の高率維持 <ul style="list-style-type: none"> <li>・連帯社会の構築を担う実務家を育成するという設立目的を持続的に果たすため、各教員は、引き続き入学者の卒業割合を高く維持するよう努める。</li> </ul> </li> <li>○研究成果の発信 <ul style="list-style-type: none"> <li>・専任教員が連帯社会を構成する労働組合、協同組合、NPOの研究を進め、研究成果をより積極的に外部に発信するため、独自サイトの活用等について検討する。</li> </ul> </li> </ul>
達成指標	<ul style="list-style-type: none"> <li>○修了生の割合の高率維持 <ul style="list-style-type: none"> <li>・連帯社会の構築を担う実務家を育成するという設立目的を持続的に果たすため、入学者の卒業割合 80%以上という現状を維持する。</li> </ul> </li> <li>○研究成果の発信 <ul style="list-style-type: none"> <li>・専任教員は、著書・論文・学会発表・講演などの形で複数回、研究成果を外部に発信すること。この研究成果へのアクセスを容易にする手段を検討すること。</li> </ul> </li> </ul>
<p><b>【重点目標】</b>  授業については、オフィスアワーの周知とともに、夜間中心の大学院であるという特殊性を前提とした活用促進策について検討を進める。</p> <p><b>【目標を達成するための施策等】</b>  授業について、夜間中心の大学院であるという特殊性を加味したオフィスアワーの活用策について教務委員会で議論され、一定の結論が得られること。</p>	

## 【大学評価総評】

「連帯社会インスティテュート」は、他大学では見られない労働組合、協同組合、NPOという連帯社会の構築、市民社会の発展に資する人材の養成を目的とした教育課程と教育内容を提供するために、各領域を専攻する教員による講義（コースワーク）と論文指導（リサーチワーク）に加え、様々な取り組みや検討が進められている点は高く評価できる。

2022年度中期目標・年度目標・達成指標の教育課程・学習成果については、2022年度の目標は達成されており、年度末報告を踏まえて2023年度の目標が立てられており、PDCAサイクルを回していることが確認できる。達成指標についても、年度目標を実現するための仕組みや方法を含めて具体的に明記するとさらに良いだろう。

また、教育課程・学習成果における課題に関しては、労働組合・協同組合・NPOの各業界が全国に展開している一方で、卒業には通学を要するため、現職の社会人にとっては首都圏でしか教育を提供できないという課題は、教育方法の特色としているオンデマンドやハイフレックス形式の授業を導入・拡充することで、一定程度、クリアされていくようにも見える。もしも、授業形式や大学院生側の勤務時間などが原因でオンラインであっても解決できない、あるいはオンラインの実施が不可能な問題があるならば、具体的内容を明記してPDCAを回し改善につなげて行くことを期待したい。

なお、教員募集、採用、昇任等に関して「根拠資料なし」と自己点検評価シートで回答していた点については、政治学研究科、公共政策研究科の規程を準用していることをインタビューで確認した。

※ 回答欄「はい・いいえ」は法令要件やその他の基礎的な要件の充足を点検している。

## 【法令要件やその他の基礎的な要件の充足状況の確認】

2023年度自己点検・評価シートに記載された Ⅱ 自己点検・評価（1）点検・評価項目における現状を 確認	法令要件やその他の基礎的な要件が充足していない箇所がある
＜法令要件やその他の基礎的な要件が充足していない項目＞	
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 3.3 教員の募集、採用、昇任等を適切に行っているか。の根拠資料が特になしとなっている。</li> <li>3.3①教員の募集、採用、昇任等の手続きや運用に関する規程は整備されていますか。</li> <li>3.3②上記の規定は、公正性、適切性が担保されるよう適切に運用されていますか。</li> </ul>	

※ 回答欄「はい・いいえ」は法令要件やその他の基礎的な要件の充足を点検している。

## 総合理工学インスティテュート

### I 2022年度 大学評価委員会の評価結果への対応

<p><b>【2022年度大学評価結果総評】（参考）</b></p> <p>IISTは2016年9月にSGU支援を受けて設立され、2023年度でSGU支援が終了するが、これまでの短い期間の間に、海外から多くの学生を受け入れ、研究成果発表を活発に行ない、修了生を輩出してきたことは高く評価できる。IISTの学生は、同じ研究科の日本人学生にとっても良い刺激になっており、法政大学のグローバル化に大きく寄与していることは高く評価できる。修士課程から博士課程への進学率は高く、博士受け入れ数5名のうち3名がIISTの内部進学となっていることから、その向学心の高さが窺える。修了生数は多くないものの、2021年度から始まったIIST卒業生と在校生の意見交換会は、キャリアを考える上で学生にとって貴重な機会となるため、持続的に発展することが期待される。世界で活躍するグローバルな人材育成のためには、このような交流会をより充実させることが望ましい。キャリアセンターとの連携による組織的なキャリア支援はまだ検討の段階にあるものの今後も継続していく必要がある。入学する学生の確保については、IISTをどれだけ海外に向けて紹介してきたかにかかっているが、わかりにくいと評価されていたIISTのWebページがリニューアルされたことにより、この問題はある程度改善されたものと思われる。今後はWebページ上、学生生活、研究活動について英語の動画コンテンツを充実させていくことが望まれる。</p>
<p><b>【2022年度大学評価委員会の評価結果への対応状況】</b></p> <p>修了生のキャリア追跡とIIST-Alumniの組織化に対しては、2021年度より実施している在校生に対する進路希望アンケートとIIST卒業生と在校生の意見交換交流会をさらに充実させ、キャリアセンターとの連携による組織的なキャリア支援の仕組みの改善を推進する。IISTのWebページの継続的リニューアルや再開された海外提携（候補）校訪問により、受験する学生の質・量の改善を図る。</p>

### II 自己点検・評価

#### 1 教育課程・学習成果

##### (1) 点検・評価項目における現状

##### 1.1 授与する学位ごとに、学位授与方針を定め、公表しているか。

1.1①授与する学位ごとに、学位授与方針（ディプロマ・ポリシー）を記入してください。	
情報科学研究科・理工学研究科の記述参照。	
1.1②上記のディプロマ・ポリシーには、授与する学位において学生が修得することが求められる知識、技能、態度等、当該学位にふさわしい学習成果が示されていますか。	はい
1.1③上記のディプロマ・ポリシーを公表していますか。	はい

##### 【根拠資料】

情報科学研究科・理工学研究科で公表された学位授与方針（ディプロマ・ポリシー）

##### 1.2 授与する学位ごとに、教育課程の編成・実施方針を定め、公表しているか。

1.2①授与する学位ごとに、教育課程の編成・実施方針（カリキュラム・ポリシー）を記入してください。	
情報科学研究科・理工学研究科の記述参照。	
1.2②上記のカリキュラム・ポリシーには、授与する学位において学習成果の達成を可能とするための教育課程の編成（教育課程の体系、教育内容）・実施（教育課程を構成する授業科目区分、授業形態等）方針が示されていますか。	はい
1.2③上記のカリキュラム・ポリシーを公表していますか。	はい

※ 回答欄「はい・いいえ」は法令要件やその他の基礎的な要件の充足を点検している。

<b>【根拠資料】</b>	
情報科学研究科・理工学研究科で公表された教育課程の編成・実施方針（カリキュラム・ポリシー）参照。	

1.3 教育課程の編成・実施方針に基づき、各学位課程にふさわしい授業科目を開設し、教育課程を体系的に編成しているか。

1.3①「法政大学大学院学則」第15条（「単位」）に基づいた単位設定を行っていますか。	はい
---	----

1.4 学生の学習を活性化し、効果的に教育を行うための様々な措置を講じているか。

1.4①学生の履修指導を適切に行っていますか。	はい
1.4②シラバスの内容の適切性と授業内容とシラバスの整合性を確保していますか。	はい
1.4③研究指導計画（研究指導の内容及び方法、年間スケジュール）を书面で作成し、あらかじめ学生が知ることのできる状態にしていますか。	はい
1.4④研究指導計画に基づく研究指導、学位論文指導を行っていますか。	はい

<b>【根拠資料】</b>	
情報科学研究科・理工学研究科の記述参照。 IISTを構成する教員の所属する理工学研究科では専攻主任会議で、情報科学研究科においては質保証委員会を中心に、それぞれの研究科の措置の実行の検証が定期的に行われている。	

1.5 成績評価、単位認定及び学位授与を適切に行っているか。

1.5①「法政大学大学院学則」第20条の2（入学前既修得単位の認定）に基づき、既修得単位などの適切な認定を行っていますか。	はい
1.5②「法政大学大学院学則」第22条（修了要件）、第26条（修了要件）に基づき、修了の要件を明確にし、刊行物、ホームページ等のいずれの方法によっても、予め学生に明示していますか。	はい
1.5③成績評価の客観性、厳格性、公正性、公平性を担保するための措置を講じていますか。	はい
1.5④学位論文審査基準を定め、文章等によって予め学生に明示し公表していますか。	はい

<b>【根拠資料】</b>	
情報科学研究科・理工学研究科の記述参照。 IISTを構成する教員の所属する理工学研究科では専攻主任会議で、情報科学研究科においては質保証委員会を中心に、それぞれの研究科の措置の実行の検証が定期的に行われている。	

1.6 学位授与方針に明示した学生の学習成果を適切に把握及び評価しているか。

1.6①分野の特性に応じた学習成果を測定するための指標の適切な設定をしていますか。	はい
1.6②分野の特性に応じた学習成果を測定するための指標に基づき学生の学習成果を把握していますか。	はい
1.6③学習成果を可視化していますか。	はい

<b>【根拠資料】</b>	
情報科学研究科・理工学研究科の記述参照。	

※ 回答欄「はい・いいえ」は法令要件やその他の基礎的な要件の充足を点検している。

IIST を構成する教員の所属する理工学研究科では専攻主任会議で、情報科学研究科においては質保証委員会を中心に、それぞれの研究科の措置の実行の検証が定期的に行われている。

1.7 教育課程及びその内容、方法の適切性について定期的に点検・評価を行っているか。  
また、その結果をもとに改善・向上に向けた取り組みを行っているか。

1.7①授業改善アンケート結果を組織的に利用していますか。	はい
1.7②大学評価室による学生調査結果（新入生アンケート・修了生アンケート）を組織的に利用していますか。	はい
【根拠資料】	
情報科学研究科・理工学研究科の記述参照。	

(2) 特色・課題

<p>以下の項目の中で、<u>インスティテュートとして特に「特色」として挙げられるもの、もしくは「課題」として今後改善に取り組んでいきたいもの</u>を選択し、記入をしてください。</p> <p>【教育課程・教育内容】【教育方法】【学習成果】それぞれの項目の中で「特色」または「課題」を選択し、内容について記入してください。</p>	
<p>【教育課程・教育内容】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・教育目標、ディプロマ・ポリシー、カリキュラム・ポリシーの適切性と連関性の検証</li> <li>・学生の能力育成のための、教育課程の編成・実施方針に基づいた教育課程・教育内容の適切な提供</li> <li>・コースワーク、リサーチワークを適切に組み合わせた教育の提供</li> <li>・専門分野の高度化に対応した教育内容の提供</li> <li>・大学院教育のグローバル化推進のための取り組み</li> </ul>	
特色	修士課程・博士課程
大学院教育のグローバル化推進のための取り組み	
<ul style="list-style-type: none"> <li>・海外の一流の研究者と共同でコロキウム・ワークショップを複数回実施している。</li> <li>・海外提携(候補)校訪問、説明会実施、SNS も利用した情報発信等のコミュニケーション強化により、海外一流校から質の高い受験生を確保する実績を上げている。</li> </ul>	
<p>【教育方法】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・教育上の目的を達成するための、効果的な授業形態の導入（PBL、アクティブラーニング、オンデマンド授業等）</li> <li>・授業がシラバスに沿って行われているかの検証（後シラバスの作成、相互授業参観、アンケート等）</li> </ul>	
特色	修士課程・博士課程
授業がシラバスに沿って行われているかの検証（後シラバスの作成、相互授業参観、アンケート等）	
<p>情報科学研究科・理工学研究科の記述参照。</p> <p>IIST を構成する教員の所属する理工学研究科では専攻主任会議で、情報科学研究科においては質保証委員会を中心に、それぞれの研究科の措置の実行の検証が定期的に行われている。</p>	
<p>【学習成果】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・成績評価及び単位認定を行うための制度や学位授与の実施手続き及び体制についての適切な運用</li> <li>・学位の水準を保つための取り組み</li> <li>・学習成果を把握する取り組み</li> <li>・学習成果を定期的に検証し、その結果をもとにした教育課程およびその内容、方法の改善・向上に向けた取り組み</li> </ul>	
特色	修士課程・博士課程

※ 回答欄「はい・いいえ」は法令要件やその他の基礎的な要件の充足を点検している。

成績評価及び単位認定を行うための制度や学位授与の実施手続き及び体制についての適切な運用
情報科学研究科・理工学研究科の記述参照。 IISTを構成する教員の所属する理工学研究科では専攻主任会議で、情報科学研究科においては質保証委員会を中心に、それぞれの研究科での適切な運用と検証が定期的に行われている。
その他、上記項目以外でインスティテュートとして「特色」として挙げられるもの、または「課題」として今後改善に取り組んでいきたいものがありましたら記入してください。
特色
特になし
課題
特になし

## 2 学生の受け入れ

### (1) 点検・評価項目における現状

#### 2.1 学生の受け入れ方針を定め、公表しているか。

2.1①インスティテュートの学生の受け入れ方針（アドミッション・ポリシー）を記入してください。	
情報科学研究科・理工学研究科の記述参照。	
2.1②上記のアドミッション・ポリシーには、ディプロマ・ポリシー及びカリキュラム・ポリシーを踏まえた、入学前の学習歴、学力水準、能力等の求める学生像や、入学希望者に求める水準等の判定方法が明確に示されていますか。	はい
2.1③上記のアドミッション・ポリシーを公表していますか。	はい
【根拠資料】	
情報科学研究科・理工学研究科で公表された受け入れ方針（アドミッション・ポリシー）参照。	

#### 2.2 学生の受け入れ方針に基づき、学生募集及び入学者選抜の制度や体制を適切に整備し、入学者選抜を公正に実施しているか。

2.2①アドミッション・ポリシーに基づき、学生募集及び入学者選抜の制度や体制をどのように適切に整備していますか。また、入学者選抜をどのように公正に実施していますか。	
情報科学研究科・理工学研究科の記述参照。 IISTを構成する教員の所属する理工学研究科では専攻主任会議で、情報科学研究科においては質保証委員会を中心に、それぞれの研究科での適切な運用と検証が定期的に行われている。	

## 3 教員・教員組織

### (1) 点検・評価項目における現状

#### 3.1 教員組織の編制に関する方針に基づき、教育研究活動を展開するため、適切に教員組織を編制しているか。

3.1①教員組織の規模について、教育研究上必要となる数の専任教員がいますか。	はい
3.1②専任教員の専門性や、主要科目への配置など、教育を実施するうえでどのような体制をとっていますか。	

※ 回答欄「はい・いいえ」は法令要件やその他の基礎的な要件の充足を点検している。

情報科学研究科・理工学研究科の記述参照。

3.2 教員の募集、採用、昇任等を適切に行っているか。

3.2①教員の募集、採用、昇任等の手続きや運用に関する規程は整備されていますか。	はい
3.2②上記の規定は、公正性、適切性が担保されるよう適切に運用されていますか。	はい
【根拠資料】	
情報科学研究科・理工学研究科の記述参照。	

3.3 教員の資質の向上を図るための方策を組織的かつ多面的に実施し、教員及び教員組織の改善につなげているか。

3.3①インスティテュート内のFD活動は組織的に行われていますか。	はい
3.3②上記項目について【はい】と回答した場合は、2022年度のFD活動の実績（開催日・テーマ・参加人数）を記入してください。	
情報科学研究科・理工学研究科の記述参照。	
3.3③インスティテュート内において研究活動や社会貢献等の諸活動の活性化や資質向上を図るための方策を講じていますか。	はい
3.3④上記項目で【はい】と回答した場合は、研究活動や社会貢献等の諸活動の活性化や資質向上を図るための取り組みの実績（開催日・テーマ・参加人数等）について記入してください。	
情報科学研究科・理工学研究科の記述参照。	

4 学生支援

(1) 特色・課題

以下の項目の中で、 <u>インスティテュートとして特に「特色」として挙げられるもの、もしくは「課題」として今後改善に取り組んでいきたいもの</u> を選択し、内容について記入をしてください。	
【学生支援】	
<ul style="list-style-type: none"> <li>・学生の能力に応じた補習教育、補充教育</li> <li>・学生の自主的な学習を促進するための支援</li> <li>・学習の継続に困難を抱える学生（留年者、退学希望者等）への対応</li> <li>・成績不振の学生の状況把握と指導</li> <li>・外国人留学生の修学支援</li> <li>・オンライン教育を行う場合における学生への配慮（相談対応、授業計画の視聴機会の確保等）</li> </ul>	
特色	修士課程・博士課程
外国人留学生の修学支援	
学内外の奨学金紹介、学内TA・RAなどの経済支援、留学生のニーズにあったキャリア支援を充実させている。	
その他、上記項目以外でインスティテュートとして「特色」として挙げられるもの、または「課題」として今後改善に取り組んでいきたいものがありましたら記入してください。	
特色	
特になし	
課題	
特になし	

※ 回答欄「はい・いいえ」は法令要件やその他の基礎的な要件の充足を点検している。

## III 2022 年度中期目標・年度目標達成状況報告書

評価基準	教育課程・学習成果【教育課程・教育内容に関すること】	
中期目標	既存の6つの横断的学びのフィールド（Global Information Systems、Ubiquitous Network and Communication Systems、Global Business Analysis and Planning、Media and Information Processing、Medical and Health Care System Design、Advanced Bioscience and Chemical Engineering）を見直し、留学生から学びの需要の高い内容を反映させたフィールドを明示的に設けるなど、再編を行う。	
年度目標	IIST 重点分野であるインテリジェンスロボティクス・データサイエンス分野の受け入れ実績の調査を継続し、両分野における留学生の学びのニーズを調査し、必要な新設科目、専攻横断的な教員の協働等、フィールド新設に向けた準備を進める。	
達成指標	インテリジェントロボティクス、データサイエンスフィールドを構成する専攻横断的な教員組織を確定させる。特に、データサイエンスに関しては潜在的に関連している分野が多いため、それらの関連性を明らかにする。	
年度末報告	教授会執行部による点検・評価	
	自己評価	B
	理由	インテリジェントロボティクス、データサイエンスフィールドの受け入れ実績を積むために、これらフィールド（今年度は特にデータサイエンス）へ導くためのセミナーを実施（6回実施）した。セミナーによる効果は現れていないが、ワークショップ、シンポジウム辺り発展させ、これらフィールドの開設につなげる。
	改善策	関連セミナーを継続的に実施することとワークショップ、シンポジウムを開催し、これらフィールドに関連する教員学生を増加させ、フィールド開設に向ける。
評価基準	教育課程・学習成果【教育方法に関すること】	
中期目標	IIST に認められた増コマを有効に活用し、英語科目を充実させる。	
年度目標	IIST 設置科目の体系化を検討する。特に、新設を目指す2フィールドのカリキュラムを確定させ、英語科目の充実をはかる。	
達成指標	英語科目を追加できる仕組みの導入により、英語科目の充実度を評価する。	
年度末報告	教授会執行部による点検・評価	
	自己評価	A
	理由	新規専任教員による新しい英語科目が開講し、IIST 主催科目も有効利用されている。また、英語科目を追加できる仕組みの導入により、英語科目は充実した。
	改善策	英語科目を追加できる仕組みを利用して、全専攻に対する英語科目の充実を目指す。
評価基準	教育課程・学習成果【学習成果に関すること】	
中期目標	学習成果を学術論文出版、国際会議研究発表などを通じて示す。	
年度目標	継続して IIST 学生の発表論文リストを作成し学修成果を評価する。また、IIST コロキウムとして IIST 学生の研究成果発表の機会を設ける。	
達成指標	ジャーナル論文・査読付き国際会議発表件数	
	教授会執行部による点検・評価	
	自己評価	S

※ 回答欄「はい・いいえ」は法令要件やその他の基礎的な要件の充足を点検している。

年度末報告	理由	これまでに引き続き、研究論文数を調査し、修了者(2022年9月、2023年3月)修了生及び在學生(33名)の公表論文数30件(ジャーナル6件、国際会議24件)と高水準が継続していることを確認した。
	改善策	—
評価基準		学生の受け入れ
中期目標		研究能力レベルの高い学生を受け入れると共に定員を恒常的に確保する。
年度目標		定員充足を達成しつつ、ガイドラインに従い、丁寧な応募前事前マッチングにより優秀な学生を選別し、質の確保をめざす。
達成指標		定員充足率、入学後の研究成果
年度末報告	教授会執行部による点検・評価	
	自己評価	A
	理由	定員については、コロナ禍の収束によって応募者は増加している。また、これまではなかった欧米からの応募者も現れている。定員充足に関しては定員を満たす見通しであり、修士課程から博士課程への内部進学する学生は依然として多く、質の高い学生の確保については達成できている。
	改善策	—
評価基準		教員・教員組織
中期目標		英語による講義・研究指導を担う教員の割合を増やす。
年度目標		IIST担当の任期付き教員の採用により、他IIST教員との連携をはかり、受け入れ可能な留学生数を増加させる。
達成指標		英語による講義・研究指導対応教員数
年度末報告	教授会執行部による点検・評価	
	自己評価	B
	理由	新任専任教員による新たな英語科目の開設と専任教員が主催するIISTセミナーにより、英語による講義は増加している。各専攻主催科目を新しく英語科目にできる仕組みを導入したが、これによって英語科目はそれほど増加していない。
	改善策	博士課程はすべての専攻がIIST学生を指導しているが、修士課程もすべての専攻が指導できるようにして、英語による講義、研究指導対応教員を増加させる。
評価基準		学生支援
中期目標		学内外の奨学金、学内TA、RAなどの経済支援、留学生のニーズにあったキャリア支援を充実させる。
年度目標		2020年度より実施している修了後進路調査・進路希望調査を充実させ、キャリアセンターと連携し組織的なキャリア支援の仕組みを検討する。
達成指標		進学・就職率
年度末報告	教授会執行部による点検・評価	
	自己評価	A
	理由	終了後進路調査・進路希望調査、新入生(在學生)と修了生との情報交換も行われている。在校生アンケートも行われている。
	改善策	意見交換会やアンケート調査をもとに、キャリアセンターと連携する。
評価基準		社会貢献・社会連携
中期目標		研究成果のグローバルな発信及び優れたグローバル人材を輩出することにより社会貢献を果たす。

※ 回答欄「はい・いいえ」は法令要件やその他の基礎的な要件の充足を点検している。

年度目標	教育内容・研究指導を充実させ優れたグローバル人材を輩出する。	
達成指標	刊行・発表論文数、博士進学数 社会のグローバル化を担う人材輩出数	
年度 末 報 告	教授会執行部による点検・評価	
	自己評価	A
	理由	2022年度在学学生33名の発表論文数30件で質の高い学生を受け入れている。
	改善策	－
【重点目標】 IISTは2016年9月のスーパーグローバル大学院創成支援を受けて設立された。この支援が2023年度で打ち切りになるが、学生の受け入れ、受け入れ学生の学習成果、修了学生の進学・就職状況、国際貢献の観点からそれ以降の存続が認められ、IIST専任教員も認められた。事業継続と自走化のためにこれまでの活動実績と自己点検評価を踏まえて、これまでの活動の総括と新しい施策が本年度の最重点課題である。		
【目標を達成するための施策等】 これまでの活動実績を学生の受け入れ、受け入れ学生の学修成果、修了学生の進学・就職状況、国際貢献の観点から再評価を行い、事業継続と自走化を可能とするための方法を教学・経営面の観点から総合的に検討する。		
【年度目標達成状況総括】 IISTは2023年度にSGU支援は終了されるが、これまでの実績をもとに事業継続が認められ、自走化が可能になった。 2022年度はIISTの学生の受け入れ、受け入れ学生の成果、修了学生の進路、国際貢献に関しては、十分に年度目標を達成した。また、IIST専任の新任教員もうまく機能していた。フィールドの再編と指導教員の増加が残されている。		

#### IV 2023年度中期目標・年度目標

評価基準	教育課程・学習成果【教育課程・教育内容に関すること】
中期目標	既存の6つの横断的学びのフィールド(Global Information Systems, Ubiquitous Network and Communication Systems, Global Business Analysis and Planning, Media and Information Processing, Medical and Health Care System Design, Advanced Bioscience and Chemical Engineering)を見直し、留学生から学びの需要の高い内容を反映させたフィールドを明示的に設けるなど、再編を行う。
年度目標	今後グローバルにますます重要となるデータサイエンス分野における留学生の学びのニーズを調査し、必要な新設科目、専攻横断的な教員の協働等、フィールド新設に向けた準備を進める。
達成指標	関連するセミナー、ワークショップ、シンポジウム等の開催状況
評価基準	教育課程・学習成果【教育方法に関すること】
中期目標	IISTに認められた増コマを有効に活用し、英語科目を充実させる。
年度目標	IIST設置科目の体系化を検討する。特に、新設を目指す2フィールドのカリキュラムを確定させ、英語科目の充実をはかる。
達成指標	英語科目の実施数
評価基準	教育課程・学習成果【学習成果に関すること】
中期目標	学習成果を学術論文出版、国際会議研究発表などを通じて示す。
年度目標	継続してIIST学生の発表論文リストを作成し学修成果を評価する。また、IISTコロキウムとしてIIST学生の研究成果発表の機会を設ける。
達成指標	ジャーナル論文・査読付き国際会議発表件数

※ 回答欄「はい・いいえ」は法令要件やその他の基礎的な要件の充足を点検している。

評価基準	学生の受け入れ
中期目標	研究能力レベルの高い学生を受け入れると共に定員を恒常的に確保する。
年度目標	定員充足を達成しつつ、ガイドラインに従い、丁寧な応募前事前マッチングにより優秀な学生を選別し、質の確保をめざす。
達成指標	定員充足率、入学後の研究成果
評価基準	教員・教員組織
中期目標	英語による講義・研究指導を担う教員の割合を増やす。
年度目標	IIST 担当の任期付き教員と他 IIST 教員との連携をはかり、受け入れ可能な留学生数を増加させる。
達成指標	英語による講義・研究指導対応教員数
評価基準	学生支援
中期目標	学内外の奨学金、学内 TA、RA などの経済支援、留学生のニーズにあったキャリア支援を充実させる。
年度目標	2020 年度より実施している修了後進路調査・進路希望調査を充実させ、キャリアセンターと連携し組織的なキャリア支援の仕組みを検討する。
達成指標	進学・就職率
評価基準	社会貢献・社会連携
中期目標	研究成果のグローバルな発信及び優れたグローバル人材を輩出することにより社会貢献を果たす。
年度目標	教育内容・研究指導を充実させ優れたグローバル人材を輩出する。
達成指標	刊行・発表論文数、博士進学数 社会のグローバル化を担う人材輩出数
<p>【重点目標】 教育内容・研究指導を充実させ優れたグローバル人材を輩出する</p> <p>【目標を達成するための施策等】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・海外提携(候補)校訪問、説明会実施、SNS も利用した情報発信等のコミュニケーション強化による受け入れ学生の質向上</li> <li>・海外の一流の研究者と共同でのコロキウム・ワークショップ等の実施</li> <li>・ジャーナル論文・査読付き国際会議等学外発表、博士進学への動機付け</li> </ul>	

## 【大学評価総評】

IIST では 2016 年 9 月に設立されて以来順調に入学人数が増加し、開設当初から倍増している。また応募者数も増加しており、特に欧米からの応募者が表れていること、内部進学する学生が多いことなど、学生の受け入れについて順調に成果を上げられていることを評価したい。

時代のニーズに沿って、横断的学びのフィールドの見直し、IIST 重点分野とするインテリジェントロボティクス、データサイエンス分野の受け入れ実績の上昇、専攻横断的な教員組織の構築に向けて努力されていることに敬意を表したい。今後の進展が期待される。IIST の Web ページの活用による効果的な広報活動も期待したい。

教育課程・学習成果については、新規専任教員による新しい英語科目の開講、および IIST 主催科目の有効利用とともに、英語科目を追加できる仕組みの導入によって英語科目が充実された点は評価に値する。とはいえ、各専攻主催科目におけるさらなる英語科目の増加は今後の課題でもあり、2023 年度目標にも英語科目の充実が掲げられており、今後の成果を期待したい。学習成果としては、修了生及び在学生の公表論文数が 30 件であったということから、質の高い学生の確保ができていると高く評価できる。

## 【法令要件やその他の基礎的な要件の充足状況の確認】

※ 回答欄「はい・いいえ」は法令要件やその他の基礎的な要件の充足を点検している。

2023年度自己点検・評価シートに記載された II 自己点検・評価（1）点検・評価項目における現状を 確認	法令要件やその他の基礎的な要 件が充足していることが確認で きた
<法令要件やその他の基礎的な要件が充足していない項目>	

---

※ 回答欄「はい・いいえ」は法令要件やその他の基礎的な要件の充足を点検している。